

彙 報

2014年(平成26年)1月～2015年(平成27年)3月

研究状況 (2014-2015年)

公募型研究班

古典解釈の東アジアの展開—宗教文献を中心課題
として 班長 藤井 淳

研究期間 2013年4月～2016年3月(3年度目)

本年度の研究実施状況

本年度は年8回の研究会を実施し、それに加えて2015年2月に国際シンポジウムを2日にわたって開催した(うち1日は共催)。副班長が事故のため本年度第3回から第7回まで欠席したが、滞りなく全8回の研究会を実施した。参加者は毎回約30名であり、分野は仏教を中心に道教・美術にいたるまでの発表があり、北は東北大学から南は熊本県立大学までの研究者が参加し、毎回の発表に対して別の専門分野の研究者がコメントを行った後に参加者全員で議論を行った。第7回目の研究会は人文研アカデミーの公開講座として開催され、参加者は総計103名となるなど盛況であった。研究会を通じて班員は専門分野を超えた研究に触れることでそれぞれ自分の専門の理解をより深めることにつながった。

研究班員

所内: 稲葉穰, 稲本泰生, ウィッテルン・クリスティアン, 岡村秀典, 金文京, 古勝隆一, 船山徹, 松岡寛子

学内: 宇佐美文理(文学研究科), 金志玪(人間・環境学研究科), 熊谷誠慈(こころの

未来研究センター), 古勝亮(総合博物館), デロッシュ・マルク・ヘンリ(白眉センター), 内記理(文化財総合研究センター), 中西竜也(白眉センター), 宮崎泉(文学研究科)

学外: 石井公成(駒澤大学), ヴィータ・シルヴィオ(京都外国語大学), 榎本文雄(大阪大学), 小川隆(駒澤大学), 加納和雄(高野山大学), 菅野博史(創価大学), 斎藤明(東京大学), 齋藤智寛(東北大学), 坂内栄夫(岐阜大学), 末本文美士(国際日本文化研究センター), 田中健一(大阪大谷大学), 田林啓(白鶴美術館), 池麗梅(鶴見大学), 陳継東(青山学院大学), 戸次顕彰(大谷大学), 中西俊英(東大寺), 中西久味(新潟大学), 西谷功(泉涌寺), 馬場紀寿(東京大学), 松田訓典(東京外国語大学), 向井佑介(京都府立大学), 村田みお(立命館大学), 室寺義仁(滋賀医科大学), 柳幹康(日本学術振興会), 山田俊(熊本県立大学), 横手裕(東京大学), 藤井淳(駒澤大学)

研究実施内容

2014年

4月19日 「平常無事」の源流—中国思想との関連から 発表者: 藤井 淳

コメンテーター: 古勝隆一

コメンテーター: 小川 隆

5月17日 中国における仏教受容と世俗化についての事例 発表者: 金 文京

コメンテーター: 村田みお

コメンテーター: 熊谷誠慈

- 7月19日 中国における神変及び瑞像表現の展開とその機能 — 敦煌壁画, 『画図讀文』の分析を中心に 発表者: 田林 啓
 コメンテーター: 稲本泰生
 コメンテーター: 宇佐美文理
- 9月6日 聖胎をめぐる思想と表象の展開
 発表者: 金 志玟
 コメンテーター: 石井公成
 コメンテーター: 内 記理
- 10月11日 理法と事法 — dharmā (法) 概念とその展開 —
 発表者: 斎藤 明
 司会: 馬場紀寿
 コメンテーター: 中西竜也
- 11月8日 仏教では「心」をどうとらえてきたか — 漱石「こころ」発表百年の今, 古典に描かれた「心」を再考する
 発表者: 室寺義仁
 発表者: 小川 隆
 発表者: 石井公成
- 12月13日 中国における仏教經典の注釈書について — 南北朝・隋代を中心として —
 発表者: 菅野博史
 コメンテーター: 古勝隆一
 コメンテーター: 戸次顕彰
- 2015年
- 1月6日 六祖慧能関連資料における經典利用について
 発表者: 齋藤智寛
 コメンテーター: Ch. ウィッテルン
 コメンテーター: 松岡寛子
- 2月14日 中国仏教研究におけるいわゆる「中国化」をめぐる問題について
 発表者: Michael Radich
 (Victor University of Wellington (NZ))
 韓国仏教における性起と縁起
 発表者: 崔 鉉植
 (東国大学校教授 (韓国))
 コメンテーター: 倉本尚徳
 (中央研究院歴史語言研究所 (台湾))
- 環境インフラストラクチャー: 自然, テクノロジー, 環境変動に関する比較研究 班長 森田敦郎
 研究期間 2014年4月—2016年3月 (2年度目)
 研究実施状況
 共同研究プロジェクトの2年目である本年は, 5月と3月に開催した国際シンポジウムとワークショップを核として, 国内・海外の共同研究者の研究発表を活発に行った。5月14日に開催したワークショップ (Environmental Infrastructures: Joint-Workshop with the Indigenous Knowledge and Modern Science Project) では, University of Copenhagen の Anders Blok, 大阪大学の森田敦郎, 京都大学の菅原和孝がそれぞれ研究発表を行った。また, 森田敦郎と石井美保は, 7月31日から8月3日にかけてエストニアのタリン大学で開催された European Association of Social Anthropologists 研究大会において, “Intimacies of Infrastructure” (Convenors: Penny Harvey (University of Manchester); Atsuro Morita (Osaka University)) と題したパネルで発表を行った。通常の研究会としては, 10月18日に大阪大学の古川不可知がネパールのヒマラヤ登山とシェルパについて, また一橋大学の難波美芸がラオスの鉄道計画についてそれぞれ発表を行った。12月15日には基盤研究 A 「在来知と近代科学」プロジェクト (代表: 大村敬一・大阪大学) との合同研究会を開催し, 京都大学の中谷和人がデンマークにおけるアール・ブリュットと政治について発表を行った。2月14日には, 国際ジャーナル Ethnos の特集 (“Infrastructure as Ontological Experiments”) の一部をなす, 森田敦郎と石井美保の2論文の合評会を行った。3月6日と7日には, 基盤研究 A 「在来知と近代科学」プロジェクト, ならびにトロント大学と共催の国際シンポジウム (Politics of Environmental Knowledge: Encounters between Indigeneity and Modernity) の開催をした。
- 研究班員
 所内: 石井美保, 瀬戸口明久
 学内: 森下翔 (人間環境学研究所・博士後期課程)
 学外: 中川理 (立教大学), 松村圭一郎 (立教大)

- 学), 木村周平 (筑波大学), 大村敬一 (大阪大学大学院), 中空萌 (東京大学大学院), Casper Bruun Jensen (IT University of Copenhagen), Brit Ross Winthereik (IT University of Copenhagen), 齋藤紋衣子 (University of Copenhagen), 鈴木和歌奈 (大阪大学), 上杉健志 (富士常葉大学), 古川不可知 (大阪大学), 難波美芸 (一橋大学)
- 研究実施内容
2014 年
- 5 月14日 Environmental Infrastructures: Joint-Workshop with the Indigenous Knowledge and Modern Science Project Introduction 発表者: Casper Jensen (IT University of Copenhagen)
Attachments to the common-place: pragmatic sociology and the aesthetic cosmopolitics of eco-housing infrastructures in Kyoto 発表者: Anders Blok (University of Copenhagen)
Floating Rice, Sluice Gates and Riparian Townscapes: Multispecies Infrastructures in the Chao Phraya Delta 発表者: Atsuro Morita (Osaka University)
Corporeal Basis of Mythical/Magical Imagination among the G!ui Former Foragers in Southern Africa 発表者: Kazuyoshi Sugawara (Kyoto University)
- 7 月31日 Intimacies of Infrastructure Intimacies of Infrastructure 司会: Penny Harvey (University of Manchester)
司会: Atsuro Morita (Osaka University)
Spiritual infrastructure / infrastructural spirits: intimacy, danger, and distance in human-nonhuman relations in South India 発表者: Miho Ishii (Kyoto University)
The barrage, houses on stilts and the amphibious landscape: infrastructures and cosmograms in the Chao Phraya Delta in Thailand 発表者: Atsuro Morita (Osaka University)
- 10月18日 「シェルパ」と道の人類学に向けて 発表者: 古川不可知 (大阪大学)
交通インフラが移動器官になるとき: ラオスの鉄道の事例 発表者: 難波美芸 (一橋大学)
- 12月15日 線の一生 — 物語る私のドローイングと政治 発表者: 中谷和人 (京都大学)
コメンテーター: 大村敬一 (大阪大学)
コメンテーター: 森田敦郎 (大阪大学)
コメンテーター: モハーチ・ゲルゲイ
- 2015 年
- 2 月14日 Environmental Infrastructures Project Meeting Introduction to Infrastructures as Ontological Experiments 発表者: 森田敦郎 (大阪大学)
Introduction to Infrastructures as Ontological Experiments, Multinatural Infrastructures 発表者: Casper Bruun Jensen (IT University of Copenhagen)
Techne of Care 発表者: 石井美保 (京都大学)
- 3 月6日 Politics of Environmental Knowledge: Encounters between Indegeneity and Modernity
- 4 月13日 2015 in preparation of Assemblages of the Future application
Reports on the Core-group meeting in March/Outline of the current proposal

司会：森田敦郎（大阪大学）		研究実施内容
Bodies	発表者：グループ討論	2014年
Infrastructures	発表者：グループ討論	4月26日
Ecologies	発表者：グループ討論	共同研究の開始にあたって（全体構想 & 仏教分科会）
Geologies	発表者：グループ討論	発表者：大谷栄一（佛教大学）
日本宗教史像の再構築	班長 大谷栄一	共同研究の開始にあたって（新宗教分科会）
研究期間	2014年4月-2017年3月（1年度目）	発表者：永岡 崇（南山大学）
研究実施状況		共同研究の開始にあたって（民間信仰分科会）
2014年度	4/26 第1回「共同研究の開始にあたって」	発表者：菊地 暁
	6/28 第2回「神の声を聴くーカオダイ教、道院、大本教の神託比較研究」	6月28日
	7/27 第3回「近代日本宗教史における〈皇道〉のポリティクス」	神の声を聴くーカオダイ教、道院、大本教の神託比較研究ー
	10/5 第4回「帝国日本と民間信仰」	カオダイ教におけるフォ・ロアンとサイ・バン
	11/16 第5回「近世仏教像の新たな構築に向けてー真宗論からのアプローチー」	発表者：高津 茂（星槎大学）
	12/12-14 国際ワークショップ Asian Buddhism: plural colonialisms and plural modernities — workshop #3-Kyoto（以上、2015年1月9日現在）	道院の靈学
研究班員		発表者：宮田義矢（駒澤大学）
所内：石井美保、菊地暁、瀬戸口明久、田中雅一、藤原辰史		靈魂をとらえ損ねるー神の声から考える民衆宗教大本ー
学外：大谷栄一（佛教大学）、板井正斉（皇學館大学）、一色哲（帝京科学大学）、岩田真美（龍谷大学）、上野大輔（慶応義塾大学）、碧海寿広（龍谷大学）、岡田正彦（天理大学）、川瀬貴也（京都府立大学）、栗田英彦（東北大学）、G. Clinton Godart（University of South California）、近藤俊太郎（本願寺史料研究所）、佐々充昭（立命館大学）、佐藤文子（本願寺史料研究所）、角南聡一郎（元興寺文化財研究所）、田中悟（神戸大学）、塚田穂高（國學院大學）、對馬路人（関西学院大学）、土居浩（ものづくり大学）、永岡崇（南山大学）、西嶋一泰（立命館大学）、西村明（東京大学）、長谷川雄高（大谷大学）、林淳（愛知学院大学）、福島栄寿（大谷大学）、松金直美（真宗大谷派教学研究所）、水内勇太（同志社大学）、吉永進一（舞鶴工業高等専門学校）、渡部圭一（琵琶湖博物館）	発表者：永岡 崇（南山大学）	
		大本・その宗教提携の事例と原由
		発表者：出口三平（無所属）
		コメンテーター：塚田穂高（國學院大學）
		コメンテーター：武内房司（学習院大学）
		コメンテーター：佐々充昭（立命館大学）
		司会：吉永進一（舞鶴高専）
		7月27日
		近代日本宗教史における〈皇道〉のポリティクス
		皇道大本の思想と運動
		発表者：水内勇太（同志社大学）
		皇道仏教と大陸布教皇道仏教と大陸布教ー十五年戦争期の宗教と国家ー
		発表者：新野和暢（真宗大谷派名古屋教区教化センター）
		コメンテーター：對馬路人（関西学院大学）
		コメンテーター：近藤俊太郎（本願寺史料研究所）

- 司会：大谷栄一（佛教大学）
- 10月5日 帝国日本と民間信仰
アジアにおける日式墓標の諸相 — 台湾を中心として —
発表者：角南聡一郎
（元興寺文化財研究所）
台湾に残る日本統治期の宗教遺産 — 保護、展示される金瓜石神社と祭礼を中心に — 発表者：林 承緯
（国立台北芸術大学）
帝国日本下における人の移動と神の勧請 — 沖縄石垣島の台湾系華僑・華人の「土地公祭」をめぐる —
発表者：森田真也（筑紫女学園大学）
「朝鮮寺」から「在日コリアン寺院」へ — 在日コリアンの宗教的实践を中心として — 発表者：宮下良子
（大阪市立大学）
コメンテーター：大谷栄一
（佛教大学）
コメンテーター：川瀬貴也
（京都府立大学）
コメンテーター：西村 明
（東京大学）
司会：菊地 暁
- 11月16日 近世仏教像の新たな構築に向けて — 真宗論からのアプローチ —
近世真宗教団の領域的編成
発表者：上野大輔（慶應義塾大学）
東本願寺教団と幕藩権力 — 加賀藩領を事例として — 発表者：松金直美
（真宗大谷派教学研究）
近世後期における真宗僧侶の訴願運動
発表者：小林准士（島根大学）
コメンテーター：林 淳
（愛知学院大学）
司会：岩田真美（龍谷大学）
- 12月12日 Asian Buddhism: plural colonialisms and plural modernities — workshop #3-Kyoto (1st day)
Connections and Collaborations across Colonies: Local Networks that Facilitated the Flow of Buddhist Reform in Southeast Asia
発表者：TURNER, Alicia
（York University）
コメンテーター：守屋友江
（阪南大学）
The Making of Muslim Networks in Japan, c. 1890-1940
発表者：GREEN, Nile
（The University of California, Los Angeles）
コメンテーター：赤井敏夫
（神戸学院大学）
The Buddhist Spokesman at the Hub of Empire: Charles Pfoundes in London, 1878-1892
発表者：BOCKING, Brian
（University College, Cork）
コメンテーター：吉永進一
（舞鶴工業高等専門学校）
Striking A Win-Win Deal: Establishing the Great Head Temple Chogyesa in 1940 Downtown Seoul
発表者：KIM, Hwansoo I.
（Duke University）
コメンテーター：川瀬貴也
（京都府立大学）
Inventing Global Buddhism: Repertoires in Transition
発表者：COX, Laurence
（National University of Ireland Maynooth）
コメンテーター：住家正芳
（立命館大学）
発表者：佐藤守弘（京都精華大学）
司会：星野靖二（國學院大学）
司会：岡田正彦（天理大学）
- 12月13日 Asian Buddhism: plural colonialisms and plural modernities — workshop #3-Kyoto (2nd day)

Original Buddhism and Its Discontents: The Chinese Buddhist Exchange Monks and the Search for the Pure Dharma in Ceylon

発表者: RITZINGER, Justin
(The University of Miami)

Herbert Spencer and Meiji Period Buddhist Philosophy

発表者: 長谷川琢哉 (大谷大学)

Takanawa Buddhist University's International Network: The Activities of the International Buddhist Young Men's Association

発表者: 岩田真美
(龍谷大学)

An Asian Religion Conference Imagined: Okakura Kakuzō and Oda Tokunō and Religious Ties in Early 20th-Century Asia

発表者: 岡本佳子
(ICU アジア文化研究所)

コメンテーター: BOCKING, Brian
(University College, Cork)

Modern Buddhism and Social Work: Akamatsu Renjō's Notion of Jizen

発表者: BANSE, Christiane
(The University of Heidelberg)

Kenmyō Takagi: An Example of the Buddhist Way of Life in Imperialism

発表者: 大來尚順 (仏教伝道協会)

Marxism and Buddhism in Modern Japan: The Anti-Religion Movement

発表者: 近藤俊太郎
(本願寺史料研究所)

Zen Buddhism in Japan-US Relations during the Vietnam War (1963-1976)

発表者: FREEMAN, Alice
(The University of Oxford)

コメンテーター: KIM, Hwansoo I.
(Duke University)

Modern Buddhism and Reading Culture: The Case of Akegarasu Haya

発表者: 碧海寿広

(龍谷大学アジア仏教研究センター)
Sakaino Kōyō's Buddhist Historiography and its Intellectual Background

発表者: SCHICKETANZ, Erik
(東京大学)

Absolutely Not a Business: Scriptural Presses and the Commercialization of Chinese Buddhist Print Culture in the 1920s

発表者: SCOTT, Gregory Adam
(The University of Edinburgh)

From Preachers to Teachers: The new Buddhist Lay Education System of the Korean Chogye Order

発表者: KAPLAN, Uri
(Duke University)

コメンテーター: DOBBINS, James
(Oberlin College)

司会: KLAUTAU, Orion
(The University of Heidelberg)

司会: 守屋友江 (阪南大学)

12月14日 Asian Buddhism: plural colonialisms and plural modernities — workshop #3-Kyoto (3rd day)

On Suga Shunei: A Man of Many Allegiances

発表者: WARD, Ryan
(明治大学)

Buddhism, War, and Technology: Rethinking Ishiwara Kanji and the East-Asia League Movement

発表者: GODART, G. Clinton
(The University of Southern California)

Enmity of the Robe

発表者: HESLOP, Luke
(The University of Edinburgh)

コメンテーター: 杉本良男
(国立民族学博物館)

コメンテーター: GREEN, Nile
(The University of California, Los Angeles)

- 司会：那須英勝（龍谷大学）
- 2015年
2月27日 秘教的コネクションと近代世界
リシャル夫妻と日本
発表者：吉永進一
（舞鶴工業高等専門学校）
The Spirit of the East : Some thoughts
on Mysticism in Jewish, Indian and
Japanese 発表者：Boaz Huss
（Ben-Gurion University of the Negev）
ミラ・リシャルと静坐社
発表者：栗田英彦（東北大学）
東と東のすれ違い—アナガーリカ・
ダルマパーラと日本—
発表者：杉本良男
（国立民族学博物館）
松ヶ岡文庫調査 発表者：日沖直子
（南山宗教文化研究所）
上海共同租界における神智学運動
発表者：莊 千慧（大阪大学）
日印の仏教復興とまぼろしの東洋宗教
会議 発表者：岡本佳子
（ICU アジア文化研究所）
英国外交文書にみるジェイムズ・カズ
ンズ 発表者：橋本順光（大阪大学）
司会：赤井敏夫（神戸学院大学）
3月15日 宮座をめぐる冒険：肥後和男『宮座の
研究』とその周辺
主な登場人物3：京大文化史学派と宮
座研究 発表者：菊地 暁
（京都大学）
肥後和男は近江で何を見たか：『宮座
の研究』の情熱を読み解く
発表者：渡部圭一（琵琶湖博物館）
原田敏明と肥後和男の距離：『社会と
伝承』を媒介にして
発表者：板井正斉（皇學館大学）
コメンテーター：市川秀之
（滋賀県立大学）
コメンテーター：田中 聡
（立命館大学）
- コメンテーター：大東敬明
（國學院大学）
司会：土居 浩（ものづくり大学）
3月25日 皇學館大学・原田敏明每文社文庫見学
会
每文社文庫からみる原田敏明 発表
者：櫻井治男（皇學館大学）
3月29日 宗教のつなぎ方：大本の宗教提携と平
和運動をめぐる
大本の宗教提携と平和運動をめぐっ
て1 発表者：出口三平（無所属）
大本の宗教提携と平和運動をめぐっ
て2 発表者：清水巖三郎（無所属）
司会：梶 龍輔（駒澤大学）
- 東アジア伝統医療文化の多角的考察 班長 大形徹
研究期間 2014年4月—2017年3月（1年度目）
研究実施状況
東アジア伝統医療の全体像とその文化的特色を構
造的に把握するために、医者、鍼灸師、薬剤師、医
学史研究者に加えて諸領域の人文学研究者を結集し
て研究集会を開催し、多彩なゲストスピーカーによ
る特別講演、班員による研究発表や『医心方』の会
読を行った。本年度に取り上げた研究課題は、美容
術における鍼灸医術、臨床から見た経穴説、煉丹術
の身体技法、喫茶文化と養生などであり、著名な医
学史家を特別講師に招いて伝統医学研究の最前線と
今後の課題を討議した。2014年7月21-23日に韓
国科学技術院（KAIST）の申東源副教授を招聘し
て国際ワークショップ（総合テーマ「東医宝鑑に見
る日韓医学交流」）を開催し、特別講演、研究発表
や附属図書館富士川文庫の調査、眼科・外科歴史博
物館の見学を行った。また、社会啓蒙活動として、
11月1-3日に京都半井家、京都医学史研究会等と
協力して護王神社護王会館にて京都医学史展2014
（第22回医療文化サロン展）を主催し、『医心方』
関連資料を中心とする展示を通して伝統医学の歴史
と現代的意義をアピールした。
- 研究班員
所内：高井たかね、武田時昌、Bill Mak(麦文彪)
学内：小泉昭夫（医学研究科教授）、原田浩二

(医学研究科・准教授)

学外：安部郁子 (財研医会・研究員), 家本句二 (森ノ宮医療学園専門学校・教員 (大阪府立大学人間社会学研究科修士課程)), 池内早紀子 (漢方薬店経営 (森ノ宮医療学園専門学校)), 王財源 (関西医療大学准教授), 桐浴眞智子 (大阪医科大学), 島山奈緒子 (明治国際医療大学大学院・博士後期課程), 多田伊織 (鈴鹿医療大学・非常勤講師), 中吉隆之 (関西医療大学), 葉山美知子 (鎌倉早見美容芸術専門学校), 平地治美 (千葉大学), 前田その子 (前田鍼灸院), 松岡尚則 (財研医会), 真柳誠 (茨城大学), 三鬼文知 (近畿大学・非常勤講師), 横山浩之 (森ノ宮医療学園), 梁嶸 (国際日本文化研究センター・外国人研究員 (北京中医薬大学基礎医学院中医診断系・教授)), 渡邊真弓 (新潟大学 (筑波技術大学・客員研究員)), 奈良上眞 (大阪医療技術学園専門学校), 趙ウニル (京都大学), 森村謙一 (薬学博士), 岩間眞知子 (日中茶文化研究家), 半井英江 (京都医療文化サロン協賛会・代表), 相川佳予子 (奈良女子大学), 今井環 (大阪府立大学), 閻淑珍 (帝京大学), 郭秀梅 (順天堂大学), 熊野弘子 (関西大学), 古藤友子 (国際基督教大学), 酒井シヅ (順天堂大学), 坂出祥伸 (関西大学・森ノ宮医療大学), 館野正美 (日本大学), 長野仁 (森ノ宮医療学園), 名和敏光 (山梨県立大学), 蓑輪圭一郎 (京都大学), 宮崎順子 (関西大学), 宮島一彦 (同志社大学), 渡邊賢一 (関西大学), 松木宣嘉 (四国医療専門学校), 大平桂一 (大阪府立大学), 木崎香織 (大阪府立大学), 林みどり (関西医療大学)

研究実施内容

2014 年

5月10日 美を探る医術
美容医術に関する東西文献選読

発表者：武田時昌

(人文科学研究所・教授)

中国伝統医療文化における鍼灸と美容の共生

発表者：王 財源

(関西医療大学・准教授)

ルネサンスの美人論—15・16世紀の西洋肖像画に見られる美人観の変遷

発表者：中江 彬

(大阪府立大学・名誉教授)

2014 年

7月6日 医学史研究の最前線(1) 恥さらしの私の人生—出版から

発表者：奥澤康正

(眼科医, 京都医学史研究会・副会長)

討論会「気の流れ—身体技法のコスモロジー」

『入薬鏡』と煉丹術の原理

発表者：加藤千恵

(立教大現代心理学部・准教授)

7月22日 第1回伝統医療文化国際ワークショップ「東医宝鑑に見る日韓医学交流

東医宝鑑の日本的受容

発表者：吉田和裕

(順天堂大学大学院医学史研究室・O.D.)

東医宝鑑と東アジア

発表者：申 東源

(韓国科学技術院 (KAIST)・副教授)

9月7日 医学史研究の最前線(2) 日本における本草書の評価—正倉院薬物等の調査から

発表者：米田該典

(大阪大学大学院医学系研究科

医学史料室・研究員)

討論会「経穴とはなにか」

思うツボ—経穴探しの手法と実践

発表者：戸ヶ崎正男

(蓬治療所・所長,

日本伝統鍼灸学会・学術部長)

10月5日 黄帝内経の新研究

発表者：真柳 誠

(茨城大学・教授)

12月21日 中国喫茶文化考

発表者：関 劍平

(立命館大学・客員教授)

2015 年

1月11日 吉益東洞の新研究 発表者：横山浩之
(森ノ宮医療学園・教授)

2月22日 東アジアの「医」の聖典
東アジアの「医」の聖典
発表者：武田時昌
(京都大学人文科学研究所・教授)
特別講演会「東アジア伝統医学の源流」

日本医学はかく始まった—医心方の時空
発表者：小曾戸洋
(北里大学東洋医学総合研究所医史学
研究部部长, 日本医史学会理事長)
朝鮮の郷薬伝統と『東医宝鑑』

発表者：安相 佑
(韓国韓医学研究院責任研究員,
前東医宝鑑記念事業団団長)
シンポジウム「日本残存古医書の来し方行く末」
韓医学の現状と発展の方向性

発表者：金 南一
(慶熙大学校韓医科大学学長)
中国古医籍の日本的受容—中韓越との比較から
発表者：真柳 誠
(茨城大学人文学部教授)

『医方類聚』の刊行前後における朝鮮医学の諸様相
発表者：申 東源
(韓国科学技術院(KAIST)・副教授)

コメンテーター：酒井シヅ
(順天堂大学・名誉教授)

司会：大形 徹
(大阪府立大学・教授)

ヨーロッパ現代思想と政治 班長 市田良彦

研究期間 2011年4月—2015年3月(4年度目)

研究実施状況

今年度、本研究班では計8回の研究会を行ない、計4回の公開講演会・公開セミナーを開催した。研究最終年度にあたる今年度、研究会はもっぱら共同研究の最終報告書となる論文集を来年度中に公刊することを目指して、班員の研究論文の構想を発表し、

その内容を全員で検討することにあてられた。その際、共同研究の三つの主要な問題系となるマルクス主義(政治と経済・歴史の関係という問題)・精神分析(構造と主体/主体化という問題)・政治哲学(とくに代議制民主主義を規範化する一連の現代政治理論との対質)を念頭に、論集全体の構想を練り上げている。また、11月13日には桂秀実とハリリー・ハルトゥーニアンを招いた日本資本主義論争をめぐるシンポジウム、11月14日にはクリスティン・ロスを招いたパリ・コミュニケーションについての講演会を開催、さらに1月12日には、市田良彦、エティエンヌ・バリバル、ブルーノ・ボスティールスを講師として、本研究班の締めくくりを飾る国際シンポジウム『政治・主体・〈現代思想〉』を組織した。また、1月17日には、上田和彦、佐藤淳二、佐藤吉幸ら班員と、ガブリエル・ラディカ、およびバリバル本人が討議する研究会「〈われわれ〉がエティエンヌ・バリバルの読解に負うもの」を開催し、現代政治哲学の諸問題について、実り多い議論を行なうことができた。

研究班員

所内：王寺賢太、立木康介、田中祐理子、藤井俊之、箱田徹

学内：坂井礼文(大学院人間環境学研究所・博士後期課程)

学外：市田良彦(神戸大学)、佐藤淳二(北海道大学)、小泉義之(立命館大学)、長原豊(法政大学)、中山昭彦(学習院大学)、上田和彦(関西学院大学)、布施哲(名古屋大学)、佐藤隆(大分大学)、沖公祐(香川大学)、佐藤吉幸(筑波大学)、信友健志(鹿児島大学)、松本潤一郎(立教大学)、上尾真道(立命館大学)、中村勝己(中央大学)、多賀健太郎(無所属)、長崎浩(無所属)

研究実施内容

2014年

2月1日 シンポジウム「ポスト68年の思想と政治：〈階級闘争〉から〈社会運動〉へ？」
司会：市田良彦(神戸大学)
司会：長原 豊(法政大学)

- 68年は「若者たちの反乱」か
 発表者：長崎 浩（無所属）
 村上一郎と市民社会派マルクス主義
 発表者：絃 秀実（近畿大学）
 マルクス主義政治哲学のためにアント
 ニオ・ネグリとその同時代人
 発表者：廣瀬 純（龍谷大学）
 ポスト68年の状況：構造から政治へ
 発表者：Gabin Walker（マギル大学）
 2月2日 ジョルジュ・カンギレムの影
 発表者：田中祐理子
 （人文科学研究所）
 狂気はもちろん革命的である…
 発表者：小泉義之（立命館大学）
 3月1日 精神分析と/の政治(II) 抵抗の場とし
 での症状 発表者：立木康介
 （人文科学研究所）
 マルクスとフロイト=ラカン形態価値
 論と鏡像段階論、資本家のディスクー
 ル 発表者：中野昌宏
 （青山学院大学）
 分裂分析とは何か：ガタリ『アンチ・
 オイディプス草稿』を読む
 発表者：佐藤吉幸（筑波大学）
 3月2日 症状からサントームへ：スラヴォイ・
 ジジェクにおける症状
 発表者：信友健志
 （龍谷大学・非常勤）
 「重層決定」再考の試み：政治思想と
 精神分析の戦略的接点を探して
 発表者：上尾真道（人文科学研究所）
 4月19日 論文集構想説明および提案：まとめと
 展望 発表者：市田良彦（神戸大学）
 マリオ・トロンティ『労働者と資本』
 を読む：イタリア・オペライスタ群
 像：マルクス主義生政治論の確立のた
 めに（その1） 発表者：中村勝己
 （中央大学・非常勤）
 7月26日 モーリス・ブランショによる『政治的
 行為』の模索（1958-1968年）
 発表者：上田和彦（関西学院大学）
 バディウ他『ヘーゲル弁証法の有理的
 核』（1977）の論理
 発表者：松本潤一郎（立教大学）
 7月27日 ヴァルター・ベンヤミン：外・力・死
 発表者：中山昭彦（学習院大学）
 分裂と統一：クロード・ルフォールの
 マキアヴェッリ論 発表者：王寺賢太
 9月20日 債権債務関係と価値形態論
 発表者：佐藤 隆（大分大学）
 再生産論批判 発表者：沖 公祐
 （香川大学）
 マリオ・トロンティ『労働者と資本』
 を読む(2) 発表者：中村勝己
 （中央大学・非常勤）
 疎外論とは何だったのか？：ルソーと
 マルクスの接点から
 発表者：佐藤淳二（北海道大学）
 発表者：廣瀬 純（龍谷大学）
 発表者：長原 豊（法政大学）
 9月21日 ラディカルとは何か
 発表者 多賀健太郎（無所属）
 支配から内戦へ：フォーコーによる歴史
 的・政治的主権批判
 発表者：箱田 徹
 （人文科学研究所・非常勤）
 11月8日 分裂分析と新たな主体性の生産：ガタ
 リ『アンチ・オイディプス草稿』を読
 む 発表者：佐藤吉幸（筑波大学）
 精神分析的諸効果：精神分析運動に関
 する一考察 発表者：上尾真道
 （立命館大学）
 疎外について 発表者：信友健志
 （鹿児島大学）
 フランス・エピステモロジーのねじ
 れ：判断と根拠をめぐって
 発表者：田中祐理子
 ラカンと精神分析の六八年：学派、バ
 ス、大学 発表者：立木康介
 12月13日 ドゥルーズにおける哲学と政治
 発表者：小泉義之（立命館大学）
 ルソーと初期マルクス：疎外【・契

- 約・時間】 発表者：佐藤淳二 (北海道大学) 人文学研究資料としての Web の可能性を再探する 班長 永崎研宣
- ユダヤ主義の位置：レオ・シュトラウス の場合 発表者：布施 哲 (名古屋大学) 研究期間 2013年4月-2016年3月(2年度目) 研究実施状況
- 12月14日 捕獲装置の二形態と丹下左膳：「二つの三位一体」論と遷移する二つの二項対立 発表者：長原豊(法政大学) 2014年度は、5回の研究会と3回の公開シンポジウムを開催した。研究会では、主に、人文学における Web の活用に関わる技術面・運用面について、公開しにくい内容も前提とした上で議論を行ない、班員全体として、Web 活用に関わる知見を深めた。ここでは主に、歴史学、文字学、チベット学、フィールドノートにおける活用事例を採り上げた。さらに、日本の Web 資料の国際的な発信と、それを受ける側の北米の大学図書館の状況についての情報共有と議論も行なった。また、公開シンポジウムにおいては、広く知られるべき事項を採り上げ、積極的な議論を行なった。ここでは、漢字資料のデジタル化と Web 公開、ローカルな組織における効率的なデータの Web 公開手法、Web アーカイビングと情報共有に関する問題について扱った。さらに、各研究会を通じて、最終的な研究成果を公開するためのより適切な手法とその具体的な内容についての検討を行なった。
- 2015年
- 1月12日 国際シンポジウム「Pourvu que ça dure… :政治・主体・現代思想」 発表者：市田良彦(神戸大学) 発表者：Etienne Balibar (コロンビア大学) 発表者：Bruno Bosteels (コーネル大学)
- 1月17日 Ce que nous devons à la lecture d'Étienne Balibar: Individualité et communauté, de Rousseau à Blanchot La problématique J. -J. Rousseau: Réflexions sur le rapport entre subjectivité et citoyenneté à partir des travaux d'Etienne Balibar 発表者：佐藤淳二(北海道大学) 2014年
- 4月28日 2014年度第一回研究会 昨年度の回顧と今年度の計画 発表者：永崎研宣 (一般財団法人人文情報学研究所) 東京大学史料編纂所の取組み 発表者：山田太造(東京大学) 全体ディスカッション司会：永崎研宣 (一般財団法人人文情報学研究所)
- 5月26日 2014年度第二回研究会 OTDOについて 発表者：松田訓典 (東京外国語大学) ディスカッション：関連分野の日本語論文誌発刊の意義と可能性について 司会：永崎研宣 (一般財団法人人文情報学研究所)
- 6月23日 2014年度第三回研究会 拓本文字データベースについて
- Sur Rousseau, la propriété et la communauté 発表者：Gabrielle Radica (アミアン大学)
- L'idée du 'citoyen sujet' et ses paradoxes: Balibar, Rousseau et la subjectivité politique 発表者：佐藤吉幸(筑波大学)
- Le droit à la non-réponse comme une méthode de transgression et de résistance 発表者：上田和彦 (関西学院大学)
- コメンテーター：Etienne Balibar (コロンビア大学)

人 文 学 報

- 発表者：安岡孝一（人文科学研究所）
人文学資料のためのモバイルアプリ開発について 発表者：橋本雄太（文学研究科）
全体ディスカッション司会：永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所）
8月5日 公開シンポジウム「漢デジ 2014：デジタル翻刻の未来」
平安時代漢字字書総合データベース—現状と課題 2014 夏—
発表者：池田証壽（北海道大学）
人文学資料と LOD 発表者：大向一輝（国立情報学研究所）
UCS 符号化という観点からの『慧琳撰一切経音義』の検討
発表者：王 一凡（東京大学）
発表者：永崎研宣（人文情報学研究所）
発表者：下田正弘（東京大学）
米国議会図書館本源氏物語の翻字と画像公開について 発表者：高田智和（国立国語研究所）
ディスカッション 司会：永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所）
10月17日 2014 年度第四回研究会：地域研究と Web
フィールドノートのデジタル化について 発表者：山田太造（東京大学）
11月27日 2014 年度第五回研究会
成果物出版についての検討
発表者：永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所）
11月27日 公開シンポジウム：京大 DH ネットワークの形成に向けて
DH とは何か？—DH がもたらし得るものとネットワーク形成の重要性を中心として 発表者：永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所）
研究者コラボレーションのための情報基盤—My データベースを中心に—
発表者：原正一郎（地域情報統合研究センター）
全体ディスカッション：京大 DH ネットワーク形成に向けて
司会：永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所）
12月22日 2014 年度第六回研究会
人間文化研究機構の国際リンク集について 発表者：後藤 真（人間文化研究機構）
米国図書館と日本文化研究
発表者：横田カーター啓子（ミシガン大学）
成果物公開に向けての検討
司会：永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所）
3月18日 国内外の DH 連携と京大 DH の可能性
人間文化研究機構の情報技術による機関連携と国際リンク集
発表者：後藤 真（人間文化研究機構）
京都大学研究資源アーカイブの活動と京都大学デジタルアーカイブシステム
発表者：五島敏芳（総合博物館）
国文学研究資料館のデータベース
発表者：古瀬 蔵（国文学研究資料館）
ディスカッション 司会：永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所）
人文学研究部
日中戦争・アジア太平洋戦争期朝鮮社会の諸相
班長 水野直樹
研究期間 2012 年 4 月-2015 年 3 月（3 年度目）
研究実施状況
2014 年度は 9 回の研究会，1 回のワークショップ（2015 年 2 月開催）を開催した。研究発表，資料紹介，書評など，計 23 の発表を行ない，質疑応答，情報交換を通じて，問題意識，視点，資料解釈などに関して活発に討論した。特にワークショップでは，

韓国から中堅研究者2名を招いて、戦時期朝鮮社会の状況に関する新たな研究状況や新たな資料について紹介してもらい、日韓の歴史研究者の交流と相互討論を図った。これらの研究発表により、戦時期の朝鮮社会についての新たな見方や新たな問題設定を進めることができた。

研究班員

所内：水野直樹，小野容照
 学内：谷川竜一（地域研究統合情報センター），川壽陽（文学研究科）
 学外：チョン・ジョンファ（韓国映像資料院韓国映画史研究所，学術振興会外国人特別研究員），姜明淑（韓国・培材大学校），尹寧實（日韓文化交流基金訪日フェロー），庵途由香（立命館大学），宮本正明（立教大学），河かおる（滋賀県立大学），山口公一（追手門大学），本間千景（佛教大学），長沢一恵（奈良大学），藤永壮（大阪産業大学），吉川絢子（同志社大学），鈴木文子（佛教大学），李昇燁（佛教大学），李正熙（仁川大学校），金慶南（法政大学），洪宗郁（同志社大学）

研究実施内容

2014年

1月11日 朝鮮人の「内地」進学をめぐる戦時期の対応：朝鮮奨学会資料を中心に
 発表者：宮本正明（立教大学）
 朝鮮総動員における朝鮮軍の構想と役割：朝鮮軍の戦時動員関連意見文書資料を中心に
 発表者：庵途由香（立命館大学）
 2月8日 朝鮮総督在任期の南次郎と陸軍の派閥
 発表者：松田利彦（国際日本文化研究センター）
 時局対応全鮮思想報国連盟（1938～1940）について
 発表者：洪宗郁（同志社大学）
 3月8日 （書評）井上和枝著『植民地朝鮮の新たな女性：「民族的賢母良妻」と「自己」のはざままで』（明石書店，2013年）

発表者：河かおる（滋賀県立大学）
 戦時期朝鮮における神社研究の諸論点
 発表者：山口公一（追手門大学）
 5月10日 1930年代農村振興運動と社会教育：嶺南明德会編『簡易農村教本』を中心に
 発表者：本間千景（佛教大学）
 日本敗戦時朝鮮における公文書の焼却・湮滅
 発表者：水野直樹
 6月14日 「満洲国」建国大学に関する一考察：朝鮮人学生の視点から
 発表者：李正熙（仁川大学校）
 国会図書館所蔵の大野緑一郎関係文書と南次郎書簡
 発表者：金慶南（法政大学）
 7月12日 1930年代朝鮮半島北部主要都市の都市計画
 発表者：谷川竜一（地域研究統合情報センター）
 戦時期における朝鮮鉦業：『朝鮮高等法院判決録』を中心として
 発表者：長沢一恵（奈良大学）
 9月13日 （資料紹介）在朝日本人の同窓会誌と文集：中等学校関係を中心に
 発表者：小野容照
 日中戦争勃発と朝鮮民衆の「国民化」試論：義勇兵，情勢認識を中心に
 発表者：李昇燁（佛教大学）
 10月11日 朝鮮総督在任期の南次郎と陸軍の派閥(2)：南総督と板垣征四郎朝鮮軍司令官の確執
 発表者：松田利彦（国際日本文化研究センター）
 （資料紹介）ある日本人官僚の「朝鮮人統治要綱試案」（1939年）
 発表者：水野直樹
 11月8日 社会運動家・民族運動家たちの戦時体験：回顧録・伝記を読む
 発表者：洪宗郁（同志社大学）
 （書評）磯前順一・尹海東編『植民地朝鮮と宗教：帝国史・国家神道・固有信仰』（日文研叢書，三元社，2013年）
 発表者：山口公一（追手門大学）

- 12月13日 (資料紹介) 高島屋「朝鮮視察報告記録」綴 (1943年) 発表者: 宮本正明 (立教大学)
『鉄証如山』: 吉林省档案馆所蔵の「慰安婦」関連資料を読む
発表者: 藤永 壮 (大阪産業大学)
- 2015年
- 1月10日 朝鮮軍連隊資料について
発表者: 庵途由香 (立命館大学)
日本敗戦直後における朝鮮奨学会の改編と活動: 1945年~1950年の時期を中心に
発表者: 宮本正明 (立教大学)
- 2月7日 「流言飛語」の時代— 戦時期朝鮮社会の実像を探る—
流言飛語取締りの法制度
発表者: 水野直樹
戦時期朝鮮における流言飛語の性格
発表者: ピョン・ウンジン (韓国放送通信大学)
神社・天皇をめぐる流言飛語
発表者: 山口公一 (追手門学院大学)
「慰安婦」動員の「流言」「造言」をめぐる
発表者: 藤永 壮 (大阪産業大学)
不穏言論事件を通じてみた戦時期の朝鮮社会
発表者: チョン・ピョンウク (高麗大学校)
- 3月14日 朝鮮金融組合連合会発行『家庭の友』『半島の光』他について
発表者: 河かおる (滋賀県立大学)
戦時期朝鮮の部活動— 中学校を中心に—
発表者: 小野容照
- 近代天皇制と社会 班長 高木博志
研究期間 2013年4月—2016年3月 (2年度目)
研究実施状況
「天皇」個人や「天皇像」、あるいは単なる政治過程でなく、天皇制を国家や社会とのかかわりで考え
- る問題意識をもって、研究会を積み重ねた。11回の研究会では、天皇制をめぐる、陵墓・遙拝所・地域の軍隊・美術など多様な問題を扱うとともに、地域社会における「開化」の拒絶/受容をめぐる論点、朝鮮の東学党へのジェノサイドや御真影のありようの内地との差異についてなど、幅広い議論がもたれた。7月26~27日には、金沢において、金沢地域の明治維新や軍隊をめぐるテーマの研究報告がもたれ、金沢近郊の行在所跡や師団跡をめぐる巡見をおこなった。さらに9月20日には佐紀古墳群(奈良市)を考古学者の今尾文昭氏の案内で、陵墓のあり方を介して古代から現代まで「天皇制と地域社会」について研究した。9月10日には、公開の国際研究集会として徐興慶氏による近世から近現代を見通す日中交流史の報告を得た。
- 研究班員
所内: 高木博志, 水野直樹, 岩城卓二, 高階絵里加, 瀬戸口明久, 藤原辰史, 池田さなえ, 日向伸介
学内: 谷川穰 (文学研究科), 福家崇洋 (大学図書館)
学外: 田中智子 (同志社大学), 飯塚一幸 (大阪大学), 市川秀之 (滋賀県立大学), 上田長生 (金沢大学), 遠藤俊六 (茨木市), 小川原幸宏 (同志社大学), 長志珠絵 (神戸大学), 尾谷雅彦 (河内長野市), 小股憲明 (大阪芸術短期大学), 鍛冶宏介 (京都学園大学), 河西秀哉 (神戸女学院大学), 小林丈広 (同志社大学), 佐竹朋子 (柳沢文庫), 高久嶺之介 (京都橘大学), 羽賀祥二 (名古屋大学), 幡鎌一弘 (天理大学), 原田敬一 (仏教大学), ジョン・グリーン (国際日本文化研究センター), 原戸喜代里 (京都府立大学), 赤澤史朗 (立命館大学), 本康宏史 (金沢星稜大学), 山本真紗子 (立命館大学), 廣木尚 (早稲田大学), 平山昇 (九州産業大学), 黒岩康博 (天理大学), 昆野伸幸 (神戸大学), 松山恵 (明治大学)

研究実施内容

2014 年

- 1 月25日 陵墓公開の現状と課題
 発表者：高木博志
 (国際日本文化研究センター)
 戦後の伊勢をかたる：神宮と天皇と社会
 発表者：ジョン・ブリーン
- 3 月29日 (書評) 市川秀之『「民俗」の創出』(岩田書院, 2013 年) 発表者：高久嶺之介
 (京都橘大学)
 滋賀県・奈良県における遙拝所碑の建立状況
 発表者：市川秀之
 (滋賀県立大学)
- 4 月5日 広沢池畔・沢乃家での研究会と桜の巡見
 文明開化と民衆生活 — 家族と親子の日常化過程
 発表者：岩本通弥
 (東京大学)
 甲申事変をめぐる新聞と輿論
 発表者：土屋礼子 (早稲田大学)
 報告後、佐野藤右衛門邸桜園、広沢池畔周辺を巡見 (高木による「京都の桜」の解説)
- 5 月17日 日本近代におけるアカデミズム史学の形成
 発表者：廣木 尚
 (早稲田大学)
 朝鮮における「御真影」の体系
 発表者：樋浦郷子 (帝京大学)
- 6 月14日 19 世紀前半における武士の政治化と「学党」
 発表者：朴薫 (ソウル大学)
 歴史化される自然
 発表者：瀬戸口明久
- 7 月26日 7 月 26 日～27 日 金沢での巡見と研究会
 幕末維新期加賀藩政治過程への一試論
 発表者：宮下和幸
 (金沢市立玉川図書館近世史料館)
 「軍都」金沢における日露戦争の記憶 — 陸軍記念日祝賀行事を事例に
 発表者：能川泰治
- 7 月27日 明治天皇行在所 (中屋家「金沢湯涌創

作の森」に移築), 金沢竹久夢二記念館, 野田山墓地 (軍用墓地～前田家墓所), 西の廓など

- 9 月10日 国際研究集会
 近世, 近代における日中文化交流史を読む — 朱舜水, 独立の研究から近代人物比較研究の敷衍へ —
 発表者：徐 興慶 (台湾大学)
- 9 月20日 9 月 20 日 佐紀古墳群をめぐる巡見と研究会
 佐紀古墳群 (五社神古墳 (神功皇后陵), 佐紀石塚山古墳 (成務天皇陵), 佐紀陵山古墳 (日葉酢媛命陵), 市庭古墳 (平城天皇陵)) など
 発表者：今尾文昭
 (奈良県立橿原考古学研究所)
- 10 月4日 戦前日本在住朝鮮人を描いた美術作品
 発表者：水野直樹
 百貨店と研究者 — 中井宗太郎と高島屋の着物图案事業を中心に —
 発表者：山本真紗子 (立命館大学)
- 11 月8日 明治維新と地域民衆 — 新政反対一揆をめぐって
 発表者：谷山正道
 (天理大学)
 明治前期滋賀県湖東地方の町村と町村行政
 発表者：高久嶺之介
 (京都橘大学)
- 12 月20日 東学農民軍せん滅作戦の真実
 発表者：井上勝生 (北海道大学)
 兵事史料のなかの民衆
 発表者：原田敬一 (仏教大学)
- 2015 年
- 1 月24日 (書評) 岸泰子『近世の禁裏と都市空間』(思文閣出版, 2014 年)
 発表者：鍛冶宏介 (京都学園大学)
- 3 月14日 由緒寺院と宮家の距離 — 年忌法要・陵墓祭をめぐって —
 発表者：青谷美羽 (同志社大学)
 近代タイにおける王国像の形成 — 第一次世界大戦を契機とした考古学行政の成立過程に着目して

発表者：日向伸介
(静岡大学)

トラウマ経験と記憶の組織化をめぐる領域横断的研究：物語からモニュメントまで 班長 田中 雅一
研究期間 2010年4月-2015年3月(5年度目)
研究実施状況

本年度は、5年間続いた本研究会の最終年度であるため、4月に代表者の田中が、4年間の総括と論文集の構成を提案した。またイスラエルからの研究者を招聘し、パレスチナとイスラエルとの和解の問題、イスラエル国民にとっての集合的な経験について議論を深めた。前期は、執筆予定となる成果論文についてアンケートをとり、全体の構成について議論を重ねた。後期に研究会を開催し、これまで発表していない執筆者や、発表内容と異なるテーマで執筆を予定しているメンバーについて発表を依頼した。これは11月と3月に行った。また、総合地球環境学研究所のプロジェクトと連携して国際ワークショップを10月に開催した。

研究班員

所内：石井美保、伊藤順二、小池郁子、高階絵里加、立木康介

学内：清水展(東南アジア研究所)、菅原和孝(人間・環境学研究科)、田辺明生(アジア・アフリカ地域研究研究科)、松井素二(文学研究科)、飯塚真弓(人間・環境学研究科)、井家晴子(人文科学研究科)、江原等子(人間・環境学研究科)、武田龍樹(人間・環境学研究科)、中谷和人(人間・環境学研究科)、荻原卓也(人間・環境学研究科)、比嘉理麻(人文科学研究科)、福西加代子(人間・環境学研究科)、山本達也(アジア・アフリカ地域研究科)、渡辺文(政策科学部)、西真如(アジア・アフリカ地域研究科)、Caitlin Coker(人間・環境学研究科)、楊大為(人間・環境学研究科)

学外：青木恵理子(龍谷大学)、大村敬一(大阪大学大学院)、兼清順子(立命館大学)、金谷美和(国立民族学博物館)、河西瑛理

子(国立民族学博物館)、北岡一弘(香川高等専門学校)、木下直子(社会理論・動態研究所)、窪田幸子(神戸大学大学院)、酒井朋子(東北学院大学)、澤野美智子(国立民族学博物館)、高垣雅緒(藍野学院短期大学)、常田夕美子(大阪大学)、中原聖乃(中京大学)、花田里欧子(東京女子大学)、福浦厚子(滋賀大学)、藤原久仁子(大阪大学)、松嶋健(国立民族学博物館)、三田牧(神戸学院大学)、上尾真道(立命館大学)、岡田浩樹(神戸大学)、アンドレア・デ・アントーニ(立命館大学)

研究実施内容

2014年

- 1月25日 ト라우マと反復 精神分析の臨床から精神分析とトラウマ
発表者：向井雅明
反復する運命 発表者：小川豊昭
(名古屋大学)
- 2月1日 歴史化するトラウマ、歴史に抗するトラウマ
ブレ・トラウマティック・オーダー：歴史化とスペクタクル化のあいだのトラウマ 発表者：上尾真道
トラウマの歴史と関わりを持つとうとする人々：ホロコースト博物館におけるボランティア活動の持つ多様な意味
発表者：兼清順子(立命館大学)
トラウマと社会生成：イヌイトの子どものかいかから考える愛と自律のジレンマ 発表者：大村敬一
(大阪大学)
- 4月19日 ト라우マ研究の回顧と展望
総括・成果公刊に向けて
発表者：田中雅一
Collective trauma as a Barrier to Reconciliation in Societies in Prolonged Conflict: The Israeli-Palestinian Case 発表者：Maya Kahanoff
(ヘブライ大学(イスラエル))

- 10月11日 【国際ワークショップ】「放射能汚染と被ばくに立ち向かう：被害とその不確実性をめぐって」
 趣旨説明 司会：中原聖乃（中京大学）
 放射線をめぐる不確実性と原爆被爆者 発表者：根本雅也（一橋大学）
 アメリカ合衆国の原子力問題と環境正義 発表者：石山徳子（明治大学）
 核開発と少数民族・先住民族 発表者：細川弘明（京都精華大学）
 ビキニ核実験被害の医学的考察：マーシャル諸島と日本の場合 発表者：間 間元（静岡県保険医協会）
 コメンテーター：ステーション智子（アメリカ合衆国議会図書館）
 コメンテーター：竹峰誠一郎（明星大学）
- 11月29日 トラウマ経験と身体
 「トラウマ化された病い：韓国社会におけるがん・乳がんをめぐる事例から」 発表者：澤野美智子（国立民族学博物館）
 記憶としてのトラウマ/出来事としてのトラウマ：トラウマ理論と二つの「事後性」 発表者：直野章子（九州大学）
 アダルトチルドレンをめぐる主体化と痛みの意味づけ 発表者：木下直子（社会理論・動態研究所）
- 2015年
 3月27日 人文学的トラウマ研究の現在
 ジョージ・オーウェルのビルマ作品におけるトラウマ経験の可能性について 発表者：北岡一弘（香川高等専門学校）
 日本占領期の記憶とトラウマ—インドネシア西カリマンタン州における「ポンティアナック事件」 発表者：富田暁（大阪大学）
- トランスジェンダーのトラウマ性についての考察 発表者：高垣雅緒（藍野大学短期大学部）
- アジアの通商ネットワークと社会秩序 班長 籠谷直人
 研究期間 2012年4月—2015年3月（3年度目）
 研究実施状況
 本年度は3年計画の3年目にあたるため、来年度に編集を進める研究報告書を見据えた報告を中心に、計5回の研究会を行なった。毎回の参加者は、15名ほどである。この最終年度も、第一年度、第二年度より引き続き、華僑華人らの公文書であるバタヴィア華僑華人公館の『公案簿』や『開吧歴史紀』などの諸文書史料について検討をすすめた。『開吧歴史紀』は、華人がのこした「バタヴィア開発史」にあたるもので、海外からも強い関心が寄せられている。さらに、ジャカルタの国立公文書館とデン・ハーグのオランダ公文書館でも史料調査・収集を行ない、華僑史をはじめ、建築史、糖業史、海運史の分野からの研究発信の準備もできた。他方において、本年度は、19世紀後半から20世紀前半の蘭領ジャワや英領シンガポールの貿易や金融を専門にする研究者を招聘し、近世から近・現代にかけての「アジア間交易の形成と構造」を長期的かつ複眼的に理解する手がかりを提供していただいた。
- 研究班員
 所内：岩井茂樹、村上衛、山崎岳
 学外：陳来幸（兵庫県立大学）、城山智子（東京大学）、弘末雅士（立教大学）、植村泰史（広島大学）、松田浩子（総合地球環境学研究所）、泉川晋（広島大学）、島田竜登（東京大学）
- 研究実施内容
 2014年
 5月31日 嘉靖倭寇の研究 発表者：山崎 岳
 日蘭印貿易関係と日本人移民 発表者：泉川 晋（広島大学）
 6月22日 ジャワにおける日本製マッチと華人流通網：1900-1920年代の統計と商標分析を中心に 発表者：工藤裕子

- 東南アジア貿易の成長と英蘭植民地通貨システムの機能, 1840-1873年
 発表者: 小林篤史 (政策研究大学院大学)
- 10月19日 バタヴィア・ジャカルタ発展と後背地
 発表者: 植村泰夫 (広島大学)
- 近世バタヴィアの政令集にみる都市および郊外における環境対策の変遷—オランダがもたらしたものと適応したこと—
 発表者: 松田浩子 (総合地球環境学研究所)
- 12月14日 バタヴィアのモール人について
 発表者: 島田竜登 (東京大学)
- 20世紀前半期のインドネシアにおけるニヤイ(現地人妻妾)観と混血婚
 発表者: 弘末雅士 (立教大学)
- ジャカルタの国際的契機—マニラ, マカオ, マラッカ, そして日本
 発表者: 籠谷直人 (東京大学)
- バタヴィア華人間での合股—公案簿(1832年~1865年)の事例からの考察—
 発表者: 城山智子 (東京大学)
- 華人カピタン文書から見える商業ネットワークの諸相
 発表者: 岩井茂樹 (東京大学)
- 20世紀初頭バタヴィア華人社会のリーダーシップ: 華人公館から「中華」組織へ
 発表者: 陳来幸 (兵庫県立大学)
- 2015年
- 1月24日 台湾中央研究院所蔵「旧台湾銀行資料」に関する調査報告
 発表者: 籠谷直人 (京都大学)
- 1930年代バタヴィアにおける日本綿製品の流通と華人商人
 発表者: 泉川 普 (広島大学)
- 15世紀のジャワと中国
 発表者: 山崎 岳 (京都大学)
- 第一次世界大戦の総合的研究**
 班長 山室信一, 岡田暁生
 研究期間 2007年4月-2015年3月(8年度目)
- 研究実施状況
 最終年度の今年, 本研究の四つの柱「世界性」「総体性」「感性」「持続性」をそれぞれ軸として, これまでの研究成果を総括し, さまざまな媒体を通じて成果報告を行った。とくに, 人文書院シリーズの連続合評会「第一次世界大戦を考える」(計五回)および山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史(編)『現代の起点 第一次世界大戦』全四巻(岩波書店, 2014年)を通じて, 広く日本社会に第一次世界大戦の歴史的意義に関する議論を広めることに貢献した。国際的な研究活動に関しては, 2014年9月にベルギーのルーヴァン大学およびドイツのルール大学ボーフムにて本研究メンバーによる第一次世界大戦の国際ワークショップが開催された。さらに, ベルリン自由大学におけるオンライン第一次大戦事典プロジェクトと京都大学人文科学研究所の間で提携を結んだ。
- 研究班員
 所内: 石井美保, 石川禎浩, 伊藤順二, 岩城卓二, 王寺賢太, 大浦康介, 小川佐和子, 小野容照, 籠谷直人, 小関隆, 瀬戸口明久, 高木博志, 高階絵里加, 竹沢泰子, 田中雅一, 田中祐理子, 立木康介, 富永茂樹, 藤井俊之, 藤原辰史, 水野直樹
 学内: 金澤周作(文学研究科), 田辺明生(アジア・アフリカ地域研究科), 向井直己(人間環境学科), 奈良岡聰智(法学研究科)
 学外: 上尾真道(立命館大学), 酒井朋子(東北学院大学), 伊東信宏(大阪大学), 佐藤慎一(東京大学), 塚原史(早稲田大学), 北原恵(大阪大学), 林田敏子(摂南大学), 小黒昌文(駒澤大学), 中本真生子(立命館大学), 上田和彦(関西学院大学), 中野耕太郎(大阪大学), 小田川大典(岡山大学), 森本淳生(一橋大学), 井野瀬久美恵(甲南大学), 石田美紀(新潟大学), 片山杜秀(慶応義塾大学), 橋本伸也(関西学院大学), 堀内隆行(新潟大学), 遠藤乾(北海道大学), 北垣徹(西南大学), 河本真理(日本女子大学), 早瀬晋三(早稲田大学), 津田博司(筑波大)

学), 坂本優一郎 (大阪経済大学), 影浦順子 (立命館大学), 荒木映子 (龍谷大学), 北村陽子 (愛知工業大学), 野村真理 (金沢大学), 大津留厚 (神戸大学), 奥田泰広 (愛知県立大学), 高原秀介 (京都産業大学), 川合大輔 (名古屋大学大学院), 森岡優紀 (京都大学大学院), 久保田裕次 (大阪大学大学院), 長沢一恵 (奈良大学), 李昇燁 (仏教大学), 久保昭博 (関西学院大学), 黒岩康博 (天理大学), 服部伸 (同志社大学), 小島亮 (中部大学), 布施将夫 (京都外国語短期大学), 平野千果子 (武蔵大学), 小野寺史郎 (埼玉大学)

研究実施内容

2014年

- 1月12日 Rethinking the First World War in Japan(1)
The First World War in Asian History
発表者: Shin'ichi Yamamuro
コメンテーター: Jan Schmidt
The First World War and Post-War Violence in Europe, 1917-1923: Rethinking "Brutalization"
発表者: Jone Horne (Trinity College, Dublin)
コメンテーター: Junji Ito
Memory of the Great War in Germany
発表者: Gerhard Hirschfeld (Universität Stuttgart)
コメンテーター: Tatsushi Fujihara
- 1月13日 Rethinking the First World War in Japan(2)
La Grande Guerre des écrivains et des artistes; mettre une tragédie en mots et en images
発表者: Anette Becker (Université Paris-Ouest Nanterre la Défense)
コメンテーター: Akeo Okada
Global and Transnational Aspects of the First World War: An Online Ency-

- clopedia Project 発表者: Oliver Janz (Freie Universität Berlin)
コメンテーター: Shinzo Hayase (Waseda University)
Commemorating catastrophe: The Great War 100 years on
発表者: Jay Winter (Yale University)
コメンテーター: Takashi Koseki
- 2月10日 総力戦体制と科学史研究
発表者: 瀬戸口明久
- 2月24日 第一次世界大戦と朝鮮独立運動
発表者: 小野容照
- 4月7日 Reading the Enemy's Mind: An Alternative History of Twentieth-Century Conflict
発表者: Zachary Shore (Naval Postgraduate School)
- 4月26日 人文研アカデミー 連続合評会 第一次世界大戦を考える
合評会「マンダラ国家から国民国家へ」
発表者: 早瀬晋三 (早稲田大学)
発表者: 藤原辰史
発表者: 根本 敬 (上智大学)
- 5月10日 人文研アカデミー 連続合評会 第一次世界大戦を考える
合評会「捕虜が働くとき」
発表者: 大津留厚 (神戸大学)
発表者: 奈良岡聰智 (法学研究科)
発表者: 梶原克彦 (愛媛大学)
- 5月24日 人文研アカデミー 連続合評会 第一次世界大戦を考える
合評会「戦う女, 戦えない女」
発表者: 林田敏子 (摂南大学)
発表者: 小関 隆
- 6月7日 人文研アカデミー 連続合評会 第一次世界大戦を考える
合評会「隣人が敵国人になる日」
発表者: 野村真理 (金沢大学)
発表者: 伊藤順二
発表者: 吉岡 潤 (津田塾大学)

人 文 学 報

- 6月28日 人文研アカデミー 連続合評会 第一 教授をゲストとして招き、最新の研究成果を披露し
 次世界大戦を考える いていただくとともに、アンソロジーへのコメントを
 合評会「戦争のつぼ」 していただいた。
- 発表者：中野耕太郎（大阪大学） 研究班員
 発表者：王寺賢太 所内：イリナ・ホルカ、大浦康介、王寺賢太、岡
 発表者：横山 良（神戸大学） 田暁生、小川佐和子、菊地暁、金文京、高
 10月4日 第一次世界大戦とオブジェ：兵士ク 階絵里加、立木康介、永田知之
 ロード・ビュルルーが彫った杖 学内：開信介（人間環境学研究科）、森岡優紀
 (1917) （人間環境学研究科）、ジュジャナ・サ
 発表者：Stéphane Audoin-Rouzeau ボー（人間環境学研究科）
 （フランス国立社会科学高等研究院研究） 学外：廣瀬千紗子（同志社女子大学）、藤田茂
 司会：王寺賢太 （東京音楽大学）、森本淳生（一橋大学）、
 10月25日 第一次大戦は、いったいなにを終わら 西川貴子（同志社大学）、笹尾佳代（徳島
 せたのか？ — 英米文学史の視点から 大学）、山上浩嗣（大阪大学）、飯島洋（金
 発表者：三原芳秋（同志社大学） 沢大学）、日高佳紀（奈良教育大学）、石
 11月10日 アランの哲学と第一次大戦 岡克俊（慶應義塾大学）、岩松正洋（関西
 発表者：田中祐理子 学院大学）、河田学（京造形芸術大学）、
 12月6日 第一次世界大戦開戦原因の再検討 — 川村清志（札幌大学）、北村卓（大阪大
 民衆心理と政治の罫 — 学）、北村直子（同志社大学）、久保昭博
 発表者：小野塚知二（東京大学） （関西学院大学）、小森謙一郎（武蔵大学）、
 2015年 近藤秀樹（大阪教育大学）、斉藤涉（東京
 2月21日 合評会『現代の起点 第一次世界大 大学）、重田みち（早稲田大学演劇博物
 戦』 館）、鈴木洋仁（国際交流基金）、高木雅
 発表者：橋本伸也 恵（九州大学）、中村ともえ（静岡大学）、
 （関西学院大学） 橋本知子（京都女子大学）
 発表者：石川禎浩 研究実施内容
 発表者：西山暁義（共立女子大学） 2014年
- 日本の文学理論・芸術理論 班長 大浦康介 2月3日 アンソロジー中間報告
 研究期間 2011年4月—2015年3月（4年度目） 発表者：日高佳紀（奈良教育大学）
 研究実施状況 2月17日 アンソロジー全体構想ほか
 最終年度にあたる平成26年は、本研究班の研究 アンソロジー全体構想
 成果報告である『日本の文学理論—アンソロジー 発表者：大浦康介
 (ベータ版)』を刊行した。本年度は、刊行に向けて アンソロジー文献年表について
 の準備作業を本格化し、これまで会読してきた日本 発表者：開 信介（京大人環 DC）
 の主要な文学・芸術理論関係の文献にもとづき、各 小論文：文学理論と芸芸社会学
 執筆担当者が中間報告を行い、それについて班員全 発表者：鈴木洋仁（東大 DC）
 員で討論するという形式で研究会を開催した。また、 海外アンソロジーの紹介
 夏にはリュブリャナで開かれたヨーロッパ日本研究 発表者：河田 学
 協会（EAJS）の第14回国際大会でラウンドテー ブルを企画・開催した。さらに、北海道大学の中村三 春教授および国際日本文化研究センターの坪井秀人
- 5月19日 アンソロジー中間報告
 「描写論」 発表者：中村ともえ

彙 報

	(静岡大学)	危機/終焉言説と学問批判
	発表者：久保昭博 (関西学院大学)	発表者：坪井秀人 (日文研)
	「読者論」 発表者：笹尾佳代 (徳島大学)	日本・アジアにおける差異の表象 班長 竹沢泰子
	発表者：岩松正洋 (関西学院大学)	研究期間 2010年4月-2015年3月 (5年度目)
	発表者：菊地 暁	研究実施状況
6月16日	アンソロジー中間報告	どのように人種の社会的なりアリティが構築されるのかを、学際的な共同研究を通じて明らかにする
	「口承文芸論」 発表者：西川貴子 (同志社大学)	本研究プロジェクトは、本年度も文系・理系の研究者に議論の場を提供するために、計13回の研究会を活発に行った。その中には、5月17日に国際人類学民族科学連合 (IUAES)・日本文化人類学会と共同主催した国際シンポジウムや、6月30日、10月25日、12月20日にそれぞれ主催した国際会議が含まれる。また、これまでの研究成果の一部を、BMC Medical Ethics 誌に共著論文“Human Genetic Research, Race, Ethnicity and the Labeling of Populations: Recommendations based on an Interdisciplinary Workshop in Japan”を発表した。共同研究の成果のとりまとめにも力を注ぎ、それらは、学術書シリーズ『人種神話を解体する』(第1巻 斉藤綾子・竹沢泰子編著『Invisibility 可視性と不可視性のあいだで』、第2巻 坂野徹・竹沢泰子編著『Knowledge 科学と社会のはざままで』、第3巻 川島浩平・竹沢泰子編著『Hybridity 「血」の政治学を越えて』(東京大学出版会)、Japanese Studies 特集号 (Rethinking Race/Racism from Asian Experiences), Transpacific Japanese American Studies: Conversations on Race and Racialisations (University of Hawai'i Press) として2015年中に刊行される予定である。
	「詩的言語論」 発表者：岩松正洋 (関西学院大学)	研究班員
7月14日	アンソロジー中間報告	所内：竹沢泰子, 石井美保, 高階絵里加, 瀬戸口明久
	「小説論」 発表者：中村ともえ (静岡大学)	学内：田辺明生 (アジア・アフリカ地域研究研究科), 松田素二 (文学部), 山本真也 (霊長類研究所), 竹内 里欧 (教育学研究科)
	発表者：大浦康介	学外：日下渉 (名古屋大学大学院), 加藤和人 (大阪大学大学院), 太田博樹 (北里大学), 斉藤綾子 (明治学院大学), 川島浩平 (武蔵大学), 坂野徹 (日本大学), 石橋純
	小論文「欧米の私小説研究」	
	発表者：イリナ・ホルカ	
	小論文「中国文学理論の日本への影響」	
	発表者：永田知之	
10月20日	アンソロジー中間報告	
	「フィクション論」 発表者：北村直子 (同志社大学・非常勤)	
	発表者：飯島 洋 (金沢大学)	
	発表者：日高佳紀 (奈良教育大学)	
11月17日	アンソロジー中間報告	
	「物語論」 発表者：西川貴子 (同志社大学)	
	発表者：笹尾佳代 (徳島大学)	
	発表者：河田 学 (京都造形芸術大学)	
	小論文「日本の映画理論」	
	発表者：小川佐和子	
12月15日	アンソロジー中間報告	
	「文学とは何か」 発表者：大浦康介	
	発表者：永田知之	
2015年		
3月16日	公開研究会	
	根源的虚構論と文学の魅力	
	発表者：中村三春 (北海道大学)	
3月30日	公開研究会	

- (東京大学大学院), 李昇燁 (佛教大学), 井野瀬久美恵 (甲南大学), 大浜郁子 (琉球大学), 河上幸子 (京都外国語大学), 辛島理人 (関西学院大学), 北原恵 (大阪大学大学院), 貴堂嘉之 (一橋大学大学院), 工藤正子 (京都女子大学), 高美智 (法政大学), 坂元ひろ子 (一橋大学大学院), スチュアート・ヘンリ (放送大学), 関口寛 (四国大学), 瀬口典子 (九州大学大学院), 成田龍一 (日本女子大学), 東島仁 (信州大学), 舟橋健太 (人間文化研究機構・地域研究推進センター), 前嵩西一馬 (早稲田大学), 水谷智 (同志社大学), 南川文里 (立命館大学), 吉村智博 (大阪人権博物館), 奥那覇潤 (愛知県立大学), ジョン・ラッセル (岐阜大学)
- 研究実施内容
- 2014 年
- 2 月12日 Crossing Boundaries: Art and History V
Atomic Memory in Japanese American Newspapers and Contemporary Rituals 発表者: 内野クリスタル (人間・環境学研究科)
Postwar Asian American Internationalism: Methodology, Historiography, and a Case Study 発表者: 大八木豪 (京都大学・非常勤)
経済リアリズムと学知からみる日本・アジア関係 発表者: 辛島理人 (京都大学・非常勤)
- 3 月6日 (日仏会館と共催)
Idéologie Républicaine et Racisme en France: XIXe-XXe Siècle (19~21 世紀フランスにおける共和国イデオロギーと人種主義)
発表者: Carole Reynaud-Paligot (パリ大学, ニューヨーク大学パリ校)
- 3 月8日 L' Anthropologie Raciale et Ses Usages Politiques en France (fin XIXe-XXe siècle) (フランスにおける形質人類学の変遷史— 19 世紀末からの人種科学をめぐって)
発表者: Carole Reynaud-Paligot (パリ大学, ニューヨーク大学パリ校)
- 3 月10日 Racial Anthropology and Science of Races: A Comparative Perspective
発表者: Carole Reynaud-Paligot (パリ大学, ニューヨーク大学パリ校)
- 5 月17日 国際人類学民族学会議 (IUAES)
Engaging Race and Racism in the New Millennium: Exploring Visibilities and Invisibilities
Marked and Unmarked: The Racialization of Minorities in the Modern State
発表者: Gyanendra Pandey (Emory University)
コメンテーター: Kristin Loftsdottir (University of Iceland)
コメンテーター: Akio Tanabe (Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University Graduate School of Asian and African Area Studies)
The anatomy of Korea-phobia in Japan
発表者: Ryuta Itagaki (Doshisha University)
How Hiphop Renders Race and Racism Visible
発表者: Dawn-Elissa Fischer (San Francisco State University)
Naturalising Inequality in the Era of Anti-racism: Effects of the New Culturalism
発表者: Gillian Cowlishaw (University of Sydney)
コメンテーター: John G. Russell (Gifu University)
- Toward a More Globalized Anthropology of Race: Some Implications from "Invisible Races" in East Asia

- 発表者：Yasuko Takezawa
Revisiting Berreman's "Race, Caste, and Other Invidious Distinctions": Implications for Transnational Dialogues and Intercultural Solidarities in Challenging Racism and Related Intolerance
発表者：Faye V. Harrison
(University of Florida)
コメンテーター：Motoji Matsuda
(Graduate School of Letters)
コメンテーター：Petr Skalnik
(University of Wroclaw)
- 5月18日 Engaging Race and Racism in the New Millennium: Exploring Visibilities and Invisibilities [Closed Meeting]
発表者：Petr Skalnik
(University of Wroclaw)
発表者：Kristin Loftsdottir
(University of Iceland)
- 6月30日 Transpacific Japanese/Asian American Studies: Dialogue Between Scholars in Japan and the U. S.
Asian Immigration through Angel Island: A History of Race and American Gatekeeping
発表者：Erika Lee
(University of Minnesota)
The Spectre of the Foreign: Race and Japan in the Ethnic Identity and Community Formation of Later Generation Japanese Americans
発表者：Dana Nakano
(University of California, Irvine)
コメンテーター：Yuki Oi
(Nanzan University)
コメンテーター：Go Oyagi
(京都大学・非常勤)
- 7月20日 民族集団のゲノム情報
発表者：松前ひろみ (北里大学)
- 9月12日 「縄文人」あるいは「弥生人」の「誕生」—日本考古学にとって「人種」とは何か
発表者：坂野徹 (日本大学)
- 差異の可視性/不可視性
発表者：竹沢泰子
「人種」研究のレビュー、展望
発表者：貴堂嘉之 (一橋大学)
- 10月25日 人種差別撤廃条約における「世系 (descent)」について (部落解放・人権研究所と合同主催)
Comment on 'Descent' in ICERD
発表者：Patrick Thornberry
(Keele University; Committee on the Elimination of Racial Discrimination)
人種差別撤廃条約の「世系 (descent)」に関する日本政府の対応について
発表者：友永健三
(部落解放・人権研究所)
- 11月9日 「ハーフ」と呼ばれる人々の呼び名、および近年の研究動向
発表者：岡村兵衛 (神戸大学)
アメリカ合衆国におけるミックス・レイスのアイデンティティのゆくえ〜日系をルーツとする芸術家たちの作品と語りから〜
発表者：竹沢泰子
- 12月20日 ヒトの多様性・ジェンダー・セクシュアリティをめぐる文理融合ワークショップ
Evolving Women: Childbirth and Infant Helplessness as Forces that Shaped Human Evolution
発表者：Karen Rosenberg
(University of Delaware)
Some Questions and Comments
コメンテーター：Yuriko Igarashi
(Nihon University)
- 12月21日 ヒトの多様性・ジェンダー・セクシュアリティをめぐる文理融合ワークショップ
性同一性障害の原因遺伝子探査の試み：性同一性障害は遺伝的な変異で説明できるのか？
発表者：仲地 豊 (埼玉医科大学)
社会的生物である人間にとっての性別

- 意識：性別違和（性同一性障害）を支える論理とその多様な実像
 発表者：中村美重（九州大学）
- 2015 年
 1 月 7 日
 国際セミナー
 International Migration of High Skilled Talent: Sending and Receiving Country Perspectives
 発表者：Neeraj Kaushal
 (Columbia University)
- 2 月 9 日
 Embodied Discriminations: Ethnicism, Racism and Casteism: Comparative Perspectives from India, Japan and Korea (デリー大学人類学部と合同主催)
 Rethinking “Race” from a Japanese Perspective
 発表者：Yasuko Takezawa
 Korean Outcast, Paekjong, and its Liberation Movement
 発表者：Joong-Seop Kim
 (Gyeongsang National University)
- 2 月 28 日
 被差別部落家族の映画表象（「家族部落を生きる」(山上徹二郎・小池征人製作・監督, 1988 年), 「ある精肉店のはなし」(本橋成一プロデューサー, 纈纈あや監督, 大久保千津奈撮影, 2013 年)）
 解説
 発表者：斉藤綾子
 (明治学院大学)
 コメンテーター：吉村智博
 (大阪人権博物館)
 コメンテーター：友永健三
 (部落解放・人権研究所)
- 3 月 23 日
 Transpacific Convergence: Studying Nikkei and Race in the U. S. and Japan (南カリフォルニア大学と合同主催)
 Japanese Diasporic Network beyond/ across the Imperial Borders: Coffee Production in the Asia-Pacific Region
 before World War II
 発表者：Mariko Iijima
 (Sophia University)
 “Localized” Problems of National Consequences: Exclusionist Discourse about Japanese Fishermen in Southern California, 1907-1948
 発表者：Yuko Konno
 (Sophia University)
 Colonial Migrants as Subjects: Koreans under the Japanese Empire
 発表者：Chikako Kashiwazaki
 (Keio University)
 Meiji Textbook Representations of Race
 発表者：Yasuko Takezawa
 Revisiting the 1952 McCarren-Walter Act
 発表者：Brian Hayashi
 (Graduate School of Human and Environmental Studies)
- 「ブラフマニズムとヒンドゥイズム」準備研究
 班長 藤井正人
 研究期間 2014 年 4 月-2016 年 3 月（1 年度目）
 研究実施状況
 本年度（第 1 年度）、年内の研究会では、昨年度終了した共同研究「灌頂と即位の文化史」の積み残しであるサンスクリット語新資料の英文訳注の作成作業を行った。この作業は年内の最後の研究会で終了したので、年明けの研究会から本研究課題に関する諸問題に関して班員同士で話題を提供しあって、研究の方向性をさぐるための検討を行う予定である。3 月には、班長を含め 3 人の班員が、現代インドにおける「ブラフマニズムとヒンドゥイズム」との関係について、ケーララ州におけるヴェーダとタントラの両方を伝承する家系 j を中心に調査する予定である。なお、本共同研究の目的と計画に関する予備的な報告と宣伝を、龍谷大学現代インド研究センターで行った：藤井正人「ブラフマニズムとヒンドゥイズム—移行・並存・混交・相互影響」2014 年 11 月 18 日。

研究班員

所内：藤井正人，田中雅一，石井美保，天野恭子（RPD），池田宣幸（技術補佐員）
 学内：横地優子（文学研究科），八木綾子（文学研究科）
 学外：井狩彌介（京都大学名誉教授），永ノ尾信悟（東京大学名誉教授），大島智靖（東京大学），梶原三恵子（東京大学），小林正人（東京大学），手嶋英貴（京都文教大学），堂山英次郎（大阪大学），西村直子（東北大学），山田智輝（大阪大学），吉水清孝（東北大学）

研究実施内容

2014年

- 6月27日 Vadhula-Srautasutra 10.14.1-45：サウトラーマニー祭(3)
 発表者：藤井正人
 7月25日 Vadhula-Srautasutra 10.14.46-75
 発表者：大島智靖（東京大学）
 11月14日 Vadhula-Srautasutra 10.15.1-37：Rajasuya 終わりの諸儀礼
 発表者：梶原三恵子（東京大学）

啓蒙とフランス革命：II 恐怖の研究

班長 富永茂樹

研究期間 2013年4月-2015年3月（2年度目）
 本年度の研究実施状況

本共同研究は最終年度に入ったので、成果報告書の刊行をめざして、班員各自が執筆する予定の論文の構想の報告を行った。そこではまずはロベスピエール、サン=ジュストとをはじめとする恐怖政治にかかわった政治家の言説の分析とおした思想と実践の特質、その背景とりわけ18世紀啓蒙哲学との複合的な関係、より広くは当時の制度・文化のなかで《恐怖》が占めた位置などを明らかにし、さらには《恐怖》とは直接つながらない、ないしはその逆の立場の政治家から見たフランス革命と恐怖政治にも配慮するなど、いくつかの多面的・総合的な視角からの研究成果を得ることができた。こうした報告は1月以降3月までなお数回なされる予定であり、最後に全体での討論を行い、その結果を踏まえ

たうえで、成果報告書の執筆に取りかかることとなっている。

研究班員

所内：王寺賢太，武田時昌，立木康介，藤井俊之，田中祐理子
 学内：門重樹子（経済学研究科），増田真（文学研究科）
 学外：川村文恵（神戸女学院大学），北垣徹（西南学院大学），久保昭博（関西大学），佐藤淳二（北海道大学），白鳥義彦（神戸大学），長尾伸一（名古屋大学），橋本周子（滋賀県立大学），前川真行（大阪府立大学），宮本陽子（広島女学院大学），福田真希（名古屋大学），上田和彦（関西大学），上野大樹（日本学術振興会）

研究実施内容

2014年

- 1月17日 知の梟と恐怖：ヘーゲルとフランス革命試論 発表者：佐藤淳二
 2月20日 恐怖前夜：国王裁判について 発表者：前川真行
 3月7日 恐怖政治期における人民再生計画：『浄化のろつぽ（creusert épuratoire）のメタファーをめぐって』 発表者：川村文重
 3月21日 誰が革命を恐れるのか：情動としての恐怖政治 発表者：北垣 徹
 5月2日 啓蒙とフランス革命・II：恐怖の研究 途方もないものに向けて：啓蒙から恐怖へのひとつの道筋 発表者：富永茂樹
 5月17日 ルソーとロベスピエールにおける信仰と市民の義務：公民宗教論と最高存在の祭典 発表者：増田真（文学研究科）
 6月6日 サン=ジュスト，ロベスピエールと《恐怖》の要請：モーリス・ブランショのサド論をめぐって 発表者：上田和彦（関西大学）
 9月26日 ルイ=セバスティアン・メルシエと革命の「音」 発表者：橋本周子

人 文 学 報

- (滋賀県立大学)
- 10月17日 市民宗教における死者への憐憫：ロベ
スビエールにおける「公德」の概念を
めぐって 発表者：稲永祐介
(パリ第1大学)
- 11月7日 恐怖政治期の「悪人」列伝
発表者：フランソワ・ラショー
- 12月8日 サン=ジュスト以前のサン=ジュスト：
II 発表者：立木康介
- 2015年
- 1月9日 パークによる革命批判の再検討のため
に：啓蒙の道徳哲学体系における「恐
怖」と「崇高」の位置
発表者：上野大樹（日本学術振興会）
- 2月6日 『自由』と『専制』をつなぐもの：恐
怖政治期における『活力 énergie』の
語意の変質 発表者：川村文重
- 3月13日 〈消滅する〉立法者の変貌：モンテス
キュー、ルソー、デイドロにおける歴
史・社会・政治 発表者：王寺賢太

東方学研究所

近現代中国における社会経済制度の再編

班長 村上 衛

研究期間 2012年4月-2015年3月（3年度目）
研究実施状況

本年度は3年計画の3年目にあたるため、来年度に編集を進める研究報告書を見据えた報告を中心に、15回の研究会を行った。毎回の参加者数は20名ほどである。本研究班は時代的・テーマ的に広い範囲を扱うため、中国近現代史研究者のみならず、明清史研究者や現代中国研究者、また人文科学系だけではなく、社会科学系の経済史研究者に参加していた。さらに本年度は東南アジア華人を中心として東南アジア関連の報告が多かったため、東南アジア研究者にもコメンテーターとして参加していただいた。いずれの報告に関しても活発に討論が行われ、報告・討論の時間を合わせて3時間半近くになることも多かった。なお、本研究班では、中国の「制度」に関心をもつ海外の研究者との交流も進め

ており、本年度はフランス社会科学高等研究院のXavier Paulès氏を招聘して、中国におけるアヘンの流行に関する報告をしていただいた。

研究班員

所内：村上衛、石川禎浩、岩井茂樹、籠谷直人、武上真理子、山崎岳、柴田陽一、城地孝、望月直人、森岡優紀、森川裕貫

学内：貴志俊彦（地域研究統合情報センター）、小島泰雄（人間・環境学研究科）、高嶋航（文学研究科）、江田憲治（人間・環境学研究科）、秋田朝美（経済学研究科）、郭まいか（文学研究科）、久保田裕次（公共政策大学院）、項巧鋒（文学研究科）、宋玉梅（人間・環境学研究科）、西山喬貴（文学研究科）、凌鵬（文学研究科）、若松大祐（学際融合教育研究推進センター）

学外：石川亮太（立命館大学）、上田貴子（近畿大学）、烏蘭其其格（兵庫県立大学）、大坪慶之（三重大学）、岡本隆司（京都府立大学）、荻恵里子（京都府立大学）、小野寺史郎（埼玉大学）、片山剛（大阪大学）、加藤雄三（奈良大学）、金丸裕一（立命館大学）、蒲豊彦（京都橋大学）、川井悟（プール女学院大学）、韓燕麗（関西学院大）、木越義則（大阪産業大学）、楠原俊代（同志社大学）、奚伶（神戸大学）、兒玉州平（神戸大学）、島田美和（慶應義塾大学）、園田節子（兵庫県立大学）、瀧田豪（京都産業大学）、田口宏二郎（大阪大学）、田中剛（京都精華大学）、陳思聡（大阪大学）、陳来幸（兵庫県立大学）、辻高広（阪南大学）、田由甲（大阪大学）、富澤芳重（島根大学）、中島勝住（京都精華大学）、根無新太郎（京都府立大学）、狭間直樹（京都大学）、浜田直也（神戸女子大学）、細見和弘（立命館大学）、堀地明（北九州市立大学）、松村光庸（無所属）、丸田孝志（広島大学）、三田剛史（明治大学）、宮内肇（立命館大学）、村尾進（天理大学）、森時彦（帝京大学）、山本一（大阪大学）、楊韜（佛教大学）、吉

彙 報

- 田建一郎 (大阪経済大学), 吉田豊子 (京都産業大学), 劉雯 (兵庫県立大学), 易星星 (兵庫県立大学), 刁成林 (立命館大学)
- 研究実施内容
- 2014 年
- 1月17日 20世紀前半, 長江中洲の開発と開発農民の具体像: 南京付近の中洲を中心に
発表者: 片山 剛 (大阪大学)
コメンテーター: 小島泰雄 (人間・環境学研究科)
- 1月31日 総理衙門—北洋大臣李鴻章体制の運用とその創出
発表者: 萩恵里子 (京都府立大学)
コメンテーター: 箱田恵子 (宮城教育大学)
- 2月14日 升科, Shengko, Shengkoing: 上海フランス租界における黄浦江沿岸埋立地の取得問題
発表者: 加藤雄三
コメンテーター: 田口宏二郎 (大阪大学)
- 4月25日 中国経済史研究と現代中国経済研究のあいだ: 通過貿易と天津羊毛貿易を例に
発表者: 村上 衛
コメンテーター: 富澤芳亜 (島根大学)
- 5月9日 南の島の女たちと商業
発表者: 岩井茂樹
コメンテーター: 村尾 進 (天理大学)
- 5月23日 村という制度
発表者: 小島泰雄 (人間・環境学研究科)
コメンテーター: 三品英憲 (和歌山大学)
- 6月6日 20世紀初頭における客家系華商の台頭: 梅県・香港・神戸・バダビア 梅県南口鎮僑郷村潘氏一族を手掛かりに
発表者: 陳 来幸 (兵庫県立大学)
コメンテーター: 植村泰夫 (広島大学)
- 6月20日 入城・駐京・観見: 省城広州, 1840
- 年代 発表者: 村尾 進 (天理大学)
コメンテーター: 茂木敏夫 (東京女子大学)
- 7月4日 1903年載振・那桐・ブレドンらの日本訪問について: 日本外務省資料からみた
発表者: 奚 伶 (神戸大学)
コメンテーター: 城山智子 (東京大学)
- 9月26日 「保護国」と「招撫」の相剋: 越境する華人集団と国際政治
発表者: 望月直人
コメンテーター: 武内房司 (学習院大学)
- 10月10日 前近代バタヴィアの国際的契機: マニラ, マカオ, マラッカ, そして日本
発表者: 籠谷直人
コメンテーター: 島田竜登 (東京大学)
- 11月7日 近代広東の医療機構と地域
発表者: 蒲 豊彦 (京都橘大学)
コメンテーター: 飯島 渉 (青山学院大学)
- 11月29日 The hidden reasons of a success story: opium in China 1800-1906
発表者: Xavier Paules (社会科学高等研究院 (EHSS))
コメンテーター: 古泉達矢 (金沢大学)
- 12月19日 近代中国経済史の基礎史料を再考する: 編纂史料を中心に
発表者: 金丸裕一 (立命館大学)
コメンテーター: 木越義則 (大阪産業大学)
- 2015 年
- 1月23日 条約裁判所 Treaty Tribunal」の設立: 19世紀中葉の中国における民事紛争解決機構の変遷
発表者: 西山喬貴 (文学研究科)
コメンテーター: 本野英一 (早稲田大学)
- 2月6日 華北塩業をめぐる興中会社の活動

発表者：兒玉州平（神戸大学）
 コメンテーター：落合功
 （青山学院大学）

2月20日 清末の黄河河道論争について

発表者：細見和弘（立命館大学）
 コメンテーター：大坪慶之
 （三重大学）

3月6日 1937年以前の中国旅行社と上海商業儲蓄銀行について

発表者：易 星星
 （兵庫県立大学）
 コメンテーター：岩間一弘
 （千葉商科大学）

雲岡石窟の研究

班長 岡村秀典

研究期間 2013年4月～2015年3月（2年度目）

本年度の研究実施状況

東方文化研究所が1938～1944年に調査した中国山西省雲岡石窟について、中国社会科学院考古研究所との共同編集により『雲岡石窟』全20巻41冊を中国の科学出版社から日中両国で3期に分けて刊行することになり、毎週開催される研究会では水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』の図版解説を会読するとともに、報告書に未収録の写真を整理する検討会を実施した。第1期（第1巻～第7巻）は日本語版・中国語版とも昨年度に出版され、第2期（第8巻～第16巻）の日本語版は2014年12月に刊行、中国語版も2015年中に出版される予定で、新編集の第3期（第17巻～第20巻）は2015年3月に投稿し、2015年度中に出版の予定である。また、中国における最新の発掘調査について意見交換をおこなうため、中国雲岡石窟研究院の王雁卿氏を招聘して7月29日に国際シンポジウム「雲岡石窟研究の現在2014」を開催し、王氏の「平城考古と雲岡石窟」の講演と熊坂聡美氏（筑波大学大学院）の「曇曜五窟の仏龕」の報告があった。

研究班員

所内：稲本泰生，安岡孝一，安藤房枝
 学内：内記理（文化財総合研究センター），高橋早紀子（文学研究科）
 学外：田中健一（大阪大谷大学），向井佑介（京都府立大学），外山潔（泉屋博古館），山

名伸生（京都清華大学），大西磨希子（佛教大学），齋藤龍一（大阪市立美術館），黄盼（京都府立大学），石松日奈子（清泉女子大学），濱田瑞美（横浜美術大学），八木春生（筑波大学）

研究実施内容

2014年

7月29日 雲岡石窟研究の現在2014

平城考古と雲岡石窟

発表者：王 雁卿
 （中国山西省雲岡石窟研究院）
 曇曜五窟の仏龕 発表者：熊坂聡美
 （筑波大学大学院）

漢語と周辺諸語の類型構造論

班長 池田 巧

研究期間 2013年4月～2015年3月（2年度目）

研究実施状況

班員を中心に関連分野の研究者に呼びかけ、チベット・ビルマ語と古代漢語の「使役文の類型構造の諸相」をテーマに研究集会を開催した。また研究連絡会議では、関西地区のチベット学研究者の班員が中心となって、チベットの英雄叙事詩『ケサル王伝』の天界篇の会読を行なった。

研究班員

所内：稲葉穰，土口史記
 学内：武内康則（文学研究科），小西賢吾（こころの未来研究センター）
 学外：林範彦（神戸市外国語大学），西田愛（神戸市外国語大学），岩尾一史（神戸市外国語大学），中西裕樹（同志社大学）

研究実施内容

2014年

4月28日（会読）『ケサル王伝』天界篇

コメンテーター：岩尾一史
 （神戸市外国語大学・非常勤）
 コメンテーター：西田 愛
 （神戸市外国語大学・非常勤）
 コメンテーター：小西賢吾
 （こころの未来研究センター・非常勤）

5月12日（会読）『ケサル王伝』天界篇

彙 報

- 5月26日 (会談)『ケサル王伝』天界篇 研究実施状況
- 6月16日 (会談)『ケサル王伝』天界篇 本年度も『朴通事諺解』および『翻訳朴通事』の
会談を行い、訳注を作成し、全書をすべて読み終わり、訳注を完成した。
- 7月6日 第1回 TB+古漢語研究会：漢藏諸語
における使役構文の類型構造(1) 研究班員
ギャロン語ヨチ方言における使役およ
び逆使役の接辞について 所内：藤本幸夫、金文京、岩井茂樹、宮紀子
発表者：白井聡子 学内：木津祐子(文学研究科)
(麗沢大学・非常勤) 学外：佐藤晴彦(神戸外国語大学)、内田慶市
西夏語韻書の構成法について (関西大学)、奥村佳代子(関西大学)、玄
発表者：荒川慎太郎 幸子(関西大学)、竹越孝(神戸外国語大
(東京外国語大学) 学)、田村祐之(姫路独協大)、岸田文隆
「清濁別義」と称される現象について (大阪大学)、堤一昭(大阪大学)、朴真完
発表者：戸内俊介(二松学舎大学) (京都産業大学)、古屋昭弘(早稲田大学)、
森田憲司(奈良大学)、船田善之(九州大
発表者：野原将揮 学)、李安九(岡山大学)、高明均(関西
(東京大学・非常勤) 学)、杉山豊(京都産業大学)
- 7月14日 (会談)『ケサル王伝』天界篇
- 7月28日 (会談)『ケサル王伝』天界篇 研究実施内容
- 9月29日 (会談)『ケサル王伝』天界篇 2014年
- 11月10日 (会談)『ケサル王伝』天界篇
- 12月1日 (会談)『ケサル王伝』天界篇
- 2015年
- 1月19日 (会談)『ケサル王伝』天界篇
- 1月24日 第2回 TB+古漢語研究会：漢藏諸語
における使役構文の類型構造) 1月11日 『朴通事』第67・68話訳注
古漢語における使成表現の変遷 発表者：金文京
発表者：松江 崇(北海道大学) 2月15日 『朴通事』第45話訳注
発表者：木津祐子(京都大)
- 1月25日 カムチベット語 Sogpho 方言の使役構
文 発表者：鈴木博之 『朴通事』第75話訳注
(国立民族学博物館・非常勤) 発表者：玄 幸子(関西大)
- ポー・カレン語の使役と逆使役 3月1日 『朴通事』第44話訳注
発表者：加藤昌彦(大阪大学) 『朴通事』第76・77話訳注
発表者：玄 幸子(関西大)
- カイケ語の使役構文 4月26日 『朴通事諺解』および『翻訳朴通事』
の訳注作成
発表者：本田伊早夫 朴通事第22・79話
(名古屋短期大学) 発表者：田村裕之(姫路独協大)
- キナウル語の使役 発表者：高橋慶治 朴通事・34話 発表者：竹越 孝
(神戸外大)
- ムニャ語の自他動詞と使役構文 5月10日 朴通事46話 発表者：木津祐子
(京都大)
- 発表者：池田 巧 朴通事78話 発表者：玄 幸子
(関西大)
- 東アジア訳学書の研究 班長 藤本幸夫・金 文京 朴通事103話 発表者：佐藤晴彦
(神戸外大)
- 研究期間 2012年4月-2015年3月(3年度目) 7月12日 朴通事30話 発表者：船田善之

人 文 学 報

	(九州大)	逸文の検出, 語彙や実例の検討, テキストマイニング, テーマ・ジャンルなどでの絞り検索などが考えられる。研究者の需要を再検討して, テキスト研究に必要な道具によって 21 世紀の人文科学研究の基盤を強化することが本研究の最大の目的だ。具体的な推進方針として, 定期的な例会で研究課題についての議論を進めて, 年に一, 二回程度拡張研究会或は公開講演会という形で研究者コミュニティと情報交換を行う。2014 年度に第二と第四火曜日開催の例会以外に 9 月 27 日に拡張研究会を開催した。その時に研究班の班員以外の方も参加して頂いて, 意見を頂戴した。2014 年に前年度に引き継いでテキスト研究・編集ツール「マンドク」の開発と同時に, テキスト・データベースの編集や検索用ウェブサイトの作成も行った。
朴通事 70 話	発表者: 金文京 (京都市大)	
朴通事 104 話	発表者: 佐藤晴彦 (神戸外大)	
8 月 16 日 朴通事 32 話	発表者: 船田善之 (九州大)	
朴通事 47 話	発表者: 木津祐子 (京都市大)	
朴通事 69 話	発表者: 金文京 (京都市大)	
10 月 25 日 朴通事 37・38 話	発表者: 竹越孝 (神戸外大)	
朴通事 81 話	発表者: 金文京 (京都市大)	
11 月 22 日 朴通事 80・82 話	発表者: 玄幸子 (関西大)	研究班員
12 月 7 日 朴通事 36 話	発表者: 竹越孝 (神戸外大)	所内: 安岡孝一, 古勝隆一, 永田知之, 土口史記, 白須裕之, ビル・マク
朴通事 51 話	発表者: 奥村佳代子 (関西大)	学内: 宮崎泉 (文学研究科)
		学外: 坂内栄夫 (岐阜大学), ミュラー・アルバート・チャールズ (東京大学), 下田正弘 (東京大学), 二階堂善弘 (関西大学), 後藤真 (人間文化研究機), 山崎直樹 (関西大学)
2015 年		
1 月 10 日 朴通事 33 話	発表者: 船田善之 (九州大)	
2 月 14 日 朴通事 106 話	発表者: 佐藤晴彦 (関西大学)	研究実施内容
高麗史の基礎問題	発表者: 張東翼 (韓国慶北大学)	2014 年
		1 月 14 日 第十一回 新しい Mandoku preview
		1 月 28 日 第十二回 漢籍リポ/マンドクのワークフロー
		4 月 22 日 第十三回 マンドクの現状
		5 月 13 日 第十四回 テキスト形式の検討
		5 月 27 日 第十五回 テキストの間の関係, 内外「リンク」など
		6 月 10 日 第十六回 典拠データについて
		6 月 24 日 第十七回 新しい Mandoku preview
		7 月 22 日 第十八回 DH2014 報告
		9 月 27 日 拡大研究会
		10 月 14 日 第二十回 検索方法について
		10 月 28 日 第二十一回 新しいメンバーの研究プロジェクト紹介
		11 月 25 日 第二十二回 Mandoku installer につ
人文情報学の基礎研究		
班長 ウィッテルン・クリスティアン		
研究期間 2013 年 4 月 - 2016 年 3 月 (2 年度目)		
本年度の研究実施状況		
本共同研究班 (2013.4-2016.3) は文献研究が行う人文科学の諸分野, 特に東方学の研究, つまり古典の校正, 解説, 注釈, 翻訳等を支援する方法や規格を提唱して, さらにそれに基づいた研究支援ツール見本の実装を目指している。そのツールの具体的な機能等は研究進行と共に明らかになるだろうが, 現時点では文字としてのテキストと画像テキストの連携, 複数のバージョンの扱い, テキスト批判, 引用文や		

いて

12月9日 第二十三回 マンドク インストーラー

2015年

1月13日 第二十四回 マンドク インストーラー/パッケージ

1月27日 第二十五回 漢籍目録について

2月10日 第二十六回 gnupack/IIIF | International Image Interoperability Framework

術数学 — 中国の科学と占術 班長 武田時昌
研究期間 2010年4月-2015年3月(5年度目)
研究実施状況

科学・占術が思想文化、宗教文化とどのように相互関連するかについて検討し、術数学の研究の場を明確にし、学問的輪郭や理論構造の特色を多角的に考察した。取り組んだ主要な研究テーマと考察内容は以下の3つの事項に大別できる。(1) 死生観、自然観や身体論の形成に関する道教文化の影響：神仙思想や道教の研究者を招聘して特別講演会を開催し、魂魄観、修養法(内丹)、仙薬(外丹)、呪法等について医薬書、術数書との関連性をめぐって討議した。(2) 先秦方術から中世術数学への変容過程：馬王堆出土帛書『刑徳』『式法』『陰陽五行乙篇』等を会読し、占術理論の数理的考察を行い、その方面の国内外の研究者を招いて特別講演会を開催した。(3) 術数学に理論基盤を提供した漢代象数易(とりわけ京氏易)の中世、近世的展開：『卜筮元龜』を会読し、『火珠林』『断易天機』等の関連文献と比較しながら近世に流行した断易の数理構造を分析し、その理論基盤について遡及的考察を行った。また、彦根市博物館琴堂文庫所蔵占術書を調査し、目録データベースを作成した。

研究班員

所内：武田 時昌、高井たかね、Bill Mak

学内：宇佐美文理(文学研究科・教授)、上なつき(人間環境学・D3)、木村亮太(文・O.D.)、金志玪(人環・准教授)、金東鎮(文・D3)、趙ウニル(文・D2)、塚本明日香(人環・D3)、田訪(文・D2)、長澤

明恵(文・O.D.)、養輪圭一郎(人環・O.D.)、呂鵬(文・D1)、伊藤裕水(文・D2)

学外：相川佳予子(奈良女子大学)、吾妻重二(関西大学)、伊香賀隆(財団法人大倉精神文化研究所)、今井環(大阪府立大学)、岩本篤志(立正大学)、浦山あゆみ(大谷大学)、閻淑珍(帝京大学)、王財源(関西医療大学)、大野裕司(福山大学)、大形徹(大阪府立大学)、小澤賢二(安徽師範大学)、尾鍋智子(立命館大学)、加藤千恵(立教大学)、久保輝幸(茨城大学)、熊野弘子(関西大学)、倉橋弘美(有限会社アペイロン社長・中原中也研究会理事)、古藤友子(国際基督教大学)、坂出祥伸(関西大学・森ノ宮医療大学)、櫻井謙介(塩野義製薬漢方研究所)、佐々木聡(東北大学)、佐藤信弥(立命館大学)、佐藤実(大妻女子大学)、清水浩子(大正大学)、清水洋子(福山大学)、島山奈緒子(明治国際医療大学)、白石将人(北京大学)、鄭宰相(同志社大学)、辛賢(大阪大学)、曾我とも子(岡山大学)、高田宗平(国立民族博物館)、多田伊織(国際日本文化研究センター)、館野正美(日本大学)、田中良明(大東文化大学)、東郷俊宏(東京有明医療大学)、仲畑信(武庫川女子大学)、奈良場勝(暁星高校)、名和敏光(山梨県立大学)、白雲飛(大阪府立大学)、橋本昭典(奈良教育大学)、豊田裕章(豊中支援学校)、橋本敬造(関西大学)、船橋優希(占術研究家)、平澤歩(東京大学)、前原あやの(関西大学)、真柳誠(茨城大学)、三鬼文知(大阪市立大学)、水口幹記(立教大学)、水野杏紀(大阪府立大学)、宮崎順子(関西大学)、宮島一彦(同志社大学)、村田浩(武庫川女子大学)、本石剛志(長崎大学)、森村謙一(広島大学)、矢野道雄(京都産業大)、山下克明(大東文化大学)、横大路綾子(大阪府立大学)、渡邊賢一(関西大学)、LAPTEV, Serguei (MIHO美術館)

研究実施内容

2014 年

- 1 月11日 朱熹における魂魄観
 発表者：白 雲飛
 (大阪府立大学・O.D.)
- 2 月1日 旧鈔本『論語義疏』の伝本並びに日本
 古代に於ける『論語義疏』受容の歴史
 発表者：高田宗平
 (国立歴史民俗博物館・研究員)
- 3 月28日 術数学東京ミーティング 2014
 納音数理考 発表者：武田時昌
 (人文科学研究所・教授)
 二十歳刑徳と刑徳七舎の刑徳運行につ
 いて一『淮南子』天文訓と出土資料と
 の比較を通じて 発表者：小倉 聖
 (早稲田大学・院生)
 浙江大『左伝』に認められる科斗文字
 について 発表者：小澤賢二
 (南京師範大学・客座教授)
 『尚書中候』初探 発表者：伊藤裕水
 (京都大学・院生)
 劉師培の義例観と劉氏家学一『春秋左
 氏伝旧注疏証』を中心として
 発表者：田 訪 (京都大学・院生)
 黄図珽『看山閣集』にみる乾隆前期の
 室内陳設 発表者：高井たかね
 (人文科学研究所・助教)
 フランス国立図書館蔵天文図初探
 発表者：鄭宰相
 (人文科学研究所・非常勤講師)
 雪見御所(平清盛邸)の立地と三合方
 術 発表者：曾我とも子
 (岡山大学・院生)
 明末清初の産業技術書について
 発表者：森村謙一
 (薬学博士(広島大学))
- 4 月6日 胡平生先生特別講演会(古算書研究会
 との共催)
 胡平生氏、阜陽漢簡を語る一『説類雑
 事』『莊子』『算術書』等
 発表者：胡 平生

(中国文化遺産・研究員)

- 6 月1日 藪内清先生追悼研究集会 2014
 中国における近代地質学の受容とその
 源 発表者：武上真理子
 (人文科学研究所・客員准教授)
 トルクメニスタンにおける染織技術の
 伝統 発表者：ヌルマメドワ・ズレイハ
 (トルクメニスタン科学アカデミー・
 研究員)
- 9 月6日 日本に流入した戦国楚簡と春秋青銅器
 発表者：小澤賢二
 (南京師範大学・客座教授)
 「日書」研究からみえてきたもの
 発表者：工藤元男
 (早稲田大学・教授)
- 11 月9日 術数学国際ワークショップ 2014-11
 (日本道教会との共催イベント)
 天理参考館が所蔵する中国の宗教民具
 一年画を中心として
 発表者：中尾徳仁
 (天理参考館・学芸員)
 訪中歴 30 年 道教踏査の日々を語る
 発表者：奈良行博
 (大阪芸術大学短期学部・准教授)
 座談会「生い立ちから語り、道教の疑
 問に答える」 発表者：吉 宏忠
 (上海市道教教会・会長)
 発表者：姚 樹良
 (上海市道教教会・副会長)
 発表者：尹 志華
 (中国道教協会国際部・副主任)
 司会：土屋昌明(専修大学教授)
- 11 月17日 復旦大学出土文献与古文字研究中心青
 銅器調査グループとの国際ワーク
 ショップ(11月16-19日)
 座談会「出土簡帛研究の最前線—整理
 状況とデータベース化」
 発表者：劉 釗
 (復旦大学出土文献与古文字
 研究中心・教授)

- コメンテーター：郭永秉副教授・張傳官助理研究員・謝明文助理研究員・廣瀬薫雄副研究員
復旦大学出土文献与古文字研究中心
司会：武田時昌
(人文科学研究所・教授)
- 12月10日 術数学国際ワークショップ2014年12月(日本道教学会、大阪府立大学人文学会2014学術研討会との共催)
形与真：道教“形”论思想述要
発表者：蔡 林波
(中国華東師範大学哲学系・副教授)
座談会「道教研究の新展開」
発表者：姜 生
(四川大学文化科技協同創新研発中心・教授)
コメンテーター：三浦國雄
(大阪市立大学・名誉教授、四川大学文化科技協同創新研発中心・教授)
コメンテーター：大形 徹
(大阪府立大学・教授)
司会：武田時昌
(人文科学研究所・教授)
- 12月21日 『淮南萬畢術』の思想史的考察
発表者：有馬卓也(広島大学・教授)
- 2015年
3月22日 術数学研究会・占術読解ワークショップ
馬王堆漢墓帛書『陰陽五行』甲篇「諸神吉凶」綴合校釈 発表者：名和敏光
(山梨県立大学・准教授)
- 漢簡語彙辞典の出版 班長 富谷 至
研究期間 2010年4月-2015年3月(5年度目)
研究実施状況
最終年度にあたる本年度は、報告書の作成と校正作業を行った。まず年度前半を、報告書の一冊である「事項考証篇」の内容報告と検討に充てた。後半は、「事項考証篇」と「辞書篇」の校正方針を定め、各人が校正中に気づいた箇所を修正・補充した。
- 2014年末に「事項考証篇」の校正は終了、2015年1月末に「辞書篇」の再校を行う予定である。二〇一四年度の担当者は次の通りである(排列は担当順)。藤井律之、吉村昌之、辻正博、大川俊隆、鷺尾祐子、井波陵一、森谷一樹、杉本憲司、富谷至、宮宅潔、佐藤達郎、鷺尾祐子、鷹取祐司、門田明。また、班員による研究報告、および、招へい外国人学者・招へい外国人研究員による講演も行った(本年度の研究実施内容を参照)。
- 研究班員
所内：井波陵一、藤井律之、宮宅潔、土口史記
学内：辻正博(人間・環境学研究科)
学外：大川俊隆(大阪産業大学)、佐藤達郎(関西学院大学)、杉本憲司(佛教大学)、角谷常子(奈良大学)、鷹取祐司(立命館大学)、目黒杏子(京都大学)、森谷一樹(中国人民大学)、吉村昌之(神戸工科大学)、鷺尾祐子(立命館大学)、吉川佑資(同志社香里高校)、陳捷(京都大学)、門田明(ノートルダム女学院高等学校)、李成九(韓国・蔚山大学)、劉恒武(中国・寧波大学)
- 研究実施内容
2014年
6月27日 寧波と日本 発表者：劉 恒武
(中国・寧波大学)
10月10日 戦国時代の巡狩説話 発表者：李 成九
(韓国・蔚山大学)
11月7日 A告B謂C 発表者：鷹取祐司
(立命館大学)
- 東アジア古典文献コーパスの応用研究 班長 安岡孝一
研究期間 2013年4月-2016年3月(2年度目)
研究実施状況
「十八史略」をもとにした漢文コーパスを作成し、さらにこの漢文コーパスを用いた形態素解析の結果を、地名情報の抽出という側面から検討した。これに合わせ、形態素解析に用いる古典漢文辞書に、地名を大量に追加するという手法を試し、非常に良好

な結果を得た。

研究班員

所内：池田巧，守岡知彦，Christian Wittern

学外：二階堂善弘（関西大学），師茂樹（花園大学），鈴木慎吾（大阪大学），山崎直樹（関西大学）

研究実施内容

2014 年

- 4月18日 平成26年度の研究計画議論，DH2014発表準備
- 5月16日 CHISEwikiにおける中国語形態素用例
- 6月6日 品詞分類再検討
- 6月20日 ChiseWikiの一文字地名と『中國古今地名大辭典』
- 7月4日 ChiseWikiの一文字地名と『中國古今地名大辭典』
- 7月18日 DH2014報告
- 8月8日 『中國古今地名大辭典』の検討
- 8月22日 じんもんこん2014発表準備，品詞分類（2014.8.22版）制作
- 9月12日 じんもんこん2014アプストラクト完成
- 10月17日 じんもんこん2014投稿原稿作成，品詞分類（2014.10.17版）制作
- 11月3日 じんもんこん2014投稿原稿作成
- 11月7日 じんもんこん2014投稿原稿完成
- 11月21日 じんもんこん2014発表準備
- 12月5日 漢文コーパス簡易検索作成，『中国語コントロール構文の解析』『述部意味関係コーパスの構築』検討
- 12月19日 じんもんこん2014報告

2015 年

- 1月16日 「姓氏」と「名」の検討
- 2月6日 2014年度研究活動まとめ

東アジア近世の地域をつなぐ関係と媒介者

班長 岩井茂樹

研究期間 2014年4月-2017年3月（1年度目）

研究実施状況

課題についての研究報告をおこなう研究会を計9

回開催したほか，研究班のサブグループによる『道咸宦海見聞録』の会読をおこなった（計21回）。これは19世紀に翰林官および地方官僚を歴任した張集馨（1800年～1879年）が遺した自編年譜および日記からなる史料である。会読にさいしては電子テキストを作成し，その校訂作業を併せておこなっている。

研究班員

所内：矢木毅，宮宅潔，村上衛，山崎岳，高井たかね，岩井茂樹，庄声，城地孝，望月直人，小林隆道

学内：岩本真利絵（大学院文学研究科DC），項巧鋒（大学院文学研究科DC），宋宇航（大学院文学研究科DC），凌鵬（大学院文学研究科DC）

学外：藤本幸夫（富山大学），金文京（鶴見大学），植松正（京都女子大学），小野達哉（大阪大学），加藤雄三（三重大学），伍躍（大阪経済法科大），中島楽章（九州大学），水越知（関西学院大学），承志（追手門学院大学），石野一晴（〇〇〇），市丸智子（九州大学），藤本猛（清泉女子大学），毛利英介（関西大学），木村加奈子（ソウル大学校），辻原明穂（京都女子大学），李怡文（エール大学）

研究実施内容

2014 年

- 2月20日 （会読）張集馨著『道咸宦海見聞録』
発表者：城地 孝
（人文科学研究所研究員・非常勤）
発表者：望月直人
（人文科学研究所現代中国研究センター産学連携研究員・非常勤）
- 3月6日 （会読）張集馨著『道咸宦海見聞録』
発表者：城地 孝
発表者：望月直人
- 3月20日 （会読）張集馨著『道咸宦海見聞録』
発表者：城地 孝
発表者：望月直人
- 4月11日 （会読）張集馨著『道咸宦海見聞録』
発表者：城地 孝

彙 報

- | | | | |
|--------|-------------------------------------|---------------------------------------|------------------------|
| 4月25日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 望月直人 | 発表者: 城地 孝 |
| 5月9日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 城地 孝 |
| 5月23日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 城地 孝 |
| 6月6日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 6月20日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 7月4日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 7月18日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 9月12日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 9月26日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 10月7日 | 中国民間文献の収集と整理 | 発表者: 鄭 振満
(廈門大学歴史学系) | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 |
| 10月10日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 10月24日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 11月7日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 11月28日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 12月5日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 12月19日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 12月23日 | 清朝巴県の「抗租」と「騙租」: 中国
伝統租佃関係について再検討 | 発表者: 凌 鵬
(京都大学大学院文学研究科 DC) | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 2015年 | | | |
| 1月9日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 1月13日 | 清末巴県の徴税請負と訴訟・調解: 特
に抬墊をめぐる | 発表者: 小野達哉
(大阪大学外国語学部
非常勤講師・非常勤) | 発表者: 小野達哉
発表者: 小野達哉 |
| 1月23日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
(京都大学人文科学研究所・非常勤) | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 |
| 1月27日 | 「牙行による交易仲介機能とそのひろ
がり」 | 発表者: 岩井茂樹
(京都大学人文科学研究所) | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 2月6日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 2月10日 | 1751年南部藩釜釜石商船漂流と外交文
書, 銀牌 | 発表者: 岩井茂樹
(京都大学人文科学研究所) | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 2月20日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
(京都大学人文科学研究所・非常勤) | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 2月24日 | 明末の弓術書『武經射學正宗』とその
周辺 | 発表者: 城地 孝
(京都大学人文科学研究所・非常勤) | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |
| 3月6日 | (会読) 張集馨著『道咸宦海見聞録』 | 発表者: 城地 孝
発表者: 望月直人 | 発表者: 望月直人
発表者: 望月直人 |

人 文 学 報

	発表者：城地 孝 (京都大学人文科学研究所・非常勤)	ズム 近世ヨーロッパの歴史叙述と政治思想	小関 隆 王寺 賢太
	発表者：望月直人	幕末期の畿内・近国社会	岩城 卓二
3月9日	萬曆朝鮮出兵にみる地域間関係 萬曆20年代明朝の封倭政策と九卿・ 科道会議 発表者：三木 聰 (北海道大学) コメンテーター：城地 孝 (京都大学人文科学研究所・非常勤)	精神分析的知を思想的に位置づける試み ザガフカスの「義賊」と戦争 南インドにおけるプータ祭祀に関する人類学的研究	立木 康介 伊藤 順二 石井 美保
	萬曆の倭寇と朝鮮の嚮導―明から見た 文禄慶長の役― 発表者：山崎 岳 (京都大学人文科学研究所)	東アジアにおける生命科学と「自然」 農業史の再構築 島崎藤村その他の近代文学者の作品研究―リアリ ズム, メディア, 帝国	瀬戸口明久 藤原 辰史 HOLCA, Irina
3月10日	海禁と貿易をめぐる東アジア国際関係 貿易と海禁―通航における統制・自由問題 発表者：岩井茂樹 (京都大学人文科学研究所)	近代日本民俗誌システムの研究 近代西洋医学発展史研究および身体論 再構築されるオリシャ崇拝―異なる「人種・宗教」 をとりこむアフリカ系アメリカ人の社会運動―	菊地 暁 田中祐理子 小池 郁子
	近世日本海禁論の前提を問う 発表者：橋本 雄 (北海道大学)	啓蒙と文学―アドルフノ美学における「人間性」の 位置づけ―	藤井 俊之
3月11日	人の往来・情報の伝播 応仁度遣明船と雪舟入再考―雪舟は、 なぜ入明したのか/できたのか?― 発表者：橋本 雄 (北海道大学)	比較映画史研究 近代朝鮮の民族運動と東アジア	小川佐和子 小野 容照

東方学研究部

個人研究

人文学研究部

		敦煌写本の言語史的研究	高田 時雄
		中国古代中世の法制	富谷 至
		中国の小説、演劇及び説唱文学の歴史	金 文京
近代東アジアにおける日本の法と政治	山室 信一	清代の文化と社会	井波 陵一
フランス革命と近代的主体の成立	富永 茂樹	中国科学の思想史的考察	武田 時昌
近代朝鮮の政治と社会	水野 直樹	近代中国の財政と社会	岩井 茂樹
在日米軍を中心とする軍事共同体の人類学的研究		先秦時代の金文	浅原 達郎
	田中 雅一	古代中国の考古学研究	岡村 秀典
文学理論の研究	大浦 康介	イスラーム東漸史の研究	稲葉 穰
ヴェーダ文献の生成と伝承の研究	藤井 正人	インド・中国における仏教の学術と実践	
人種・エスニシティ論	竹沢 泰子		船山 徹
戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク	籠谷 直人	仏教研究知識ベース―禅仏教を例として	
近代天皇制の文化史的研究	高木 博志		WITTERN, Christian
音楽におけるロマン派とメロドラマ的音楽		川西走廊の漢藏諸語の記述言語学的研究	
	岡田 暁生		池田 巧
近代日本の芸術と西洋	高階絵里加	中国共産党史の研究	石川 禎浩
19世紀末イギリスのポピュラー・コンサヴァティ		文字コード理論	安岡 孝一

彙 報

秦漢時代の制度史 宮宅 潔 (ベルリン自由大学教授)
 高麗官僚制度研究 矢木 毅 オリヴァー・ヤンツ
 中国注釈学史研究 古勝 隆一 討論者：早瀬 晋三
 華南沿海の社会経済制度の変容 村上 衛 第一次世界大戦再考：100年の後に
 東アジア仏教美術史の研究 稲本 泰生 (イエール大学教授)
 中国中世近世の文学理論 永田 知之 ジェイ・ウィンター
 文字定義情報に基づく文書表現系に関する研究 討論者：小関 隆

守岡 知彦
 中国古代中世の官制史 藤井 律之 ・東アジア人文情報学研究センター講習会
 モンゴル時代の文化政策と出版活動 宮 紀子 ・2014年度漢籍担当職員講習会(初級)
 明代後期北虜南倭時代の中国社会 山崎 岳 第一日(9月29日)
 中国家具とその使用に関する研究 高井たかね オリエンテーション 富谷 至
 中国北魏時代の仏教石窟寺院 安藤 房枝 漢籍について(四部分類概説を含む) 井波陵一
 中国古代における領域支配の研究 土口 史記 カードの取り方ー漢籍整理の実践 土口史記

事業概況

・国際ワークショップ(人文研アカデミー)

2014年1月12日, 13日

於 京都大学百周年時計台記念国際交流ホール

第一次世界大戦再考：100年後の日本で考える

1月12日 アジア史における第一次世界大戦

山室信一

討論者：(ボーフム大学講師)

ヤン・シュミット

第一次世界大戦と戦後の暴力：「野蛮化」再考

(ダブリン大学教授) ジョン・ホーン

討論者：伊藤順二

ナチズムと第一次世界大戦の記憶

(シュトゥットガルト大学教授)

ゲルハルト・ヒルシュフェルト

討論者：藤原辰史

1月13日 戦時において芸術家・著述家であること

(バリ第十大学教授)

アネット・ベッケル

討論者：岡田暁生

グローバル/トランスナショナルな第一次世界大戦研究：オンライン事典プロジェクトに寄せて

オリエンテーション 富谷 至

漢籍について(四部分類概説を含む) 井波陵一

カードの取り方ー漢籍整理の実践 土口史記

第二日(9月30日)

工具書について 高井たかね

漢籍関連サイトの利用

附属図書館情報サービス課相互利用掛 大西賢人

実習を始めるにあたって 梶浦 晋

漢籍目録カード作成実習

第三日(10月1日)

目録検索とデータベース検索 安岡孝一

漢籍データ入力実習(一)

第四日(10月2日)

和刻本について

文学研究科教授 宇佐美文理

漢籍データ入力実習(二)

第五日(10月3日)

朝鮮本について 矢木 毅

実習解説 土口史記

情報交換 井波陵一

・2014年度漢籍担当職員講習会(中級)

第1日(11月10日)

オリエンテーション 富谷 至

経部について 古勝隆一

叢書部について 藤井律之

叢書と漢籍データベース 安岡孝一

第2日(11月11日)

史部について 宮宅 潔

漢籍データ入力実習(一)

第3日(11月12日)

- 子部について 永田知之 ギャヴィン・ウォーカー
漢籍データ入力実習 (二) 司会：(法政大学教員) 長原 豊
第4日 (11月13日) (神戸大学教員) 市原良彦
集部について
- 人間・環境学研究科教授 道坂昭廣 ・連続セミナー
第5日 (11月14日) 生誕一五〇周年記念展 ダンヌンツィオに夢中だっ
漢籍と情報処理 WITTERN, Christian た頃—ガブリエーレ・ダンヌンツィオ (1863-
1938)
実習解説 土口史記 2014年2月
情報交換 井波陵一 於 京都大学総合博物館内
「ダンヌンツィオをめぐる—京大人文研・第一次
世界大戦研究班による連続セミナーと映画上映」
2月1日 ダンヌンツィオの時代—戦争と芸術
家 岡田暁生
2月8日 ダンヌンツィオと第一次世界大戦期の
イタリア無声映画 小川佐和子
- ・三研究所合同シンポジウム
2014年1月24日
於 本館4階大会議室
東アジアから世界史を見る/考える
第1部「前近代の東アジアから見た世界」
発表者：(京都大学) 山崎 岳
(東京大学) 黒田明伸
(成均館大学) 金 慶浩
討論者：(成均館大学) チン・ジェギユ
(東京大学) 小寺 敦
(京都大学) 村上 衛
第2部「近代東アジアと世界」
講演者：(東京大学) 羽田 正
(京都大学) 籠谷直人
(成均館大学) チョン・ウテク
討論者：(成均館大学) 宮寫博史
(東京大学) 大木 康
(京都大学) 岩井茂樹
- ・研究セミナー
2014年3月14日
於 分館2F 会議室
第25回研究セミナー「東洋学へのコンピュータ利
用」
国際化ドメイン名における「堺」と「界」
(京都大学) 安岡孝一
比較的最近の CHISE (京都大学) 守岡知彦
時間情報を取り扱うための課題の整理を試みる—
日本史資料を題材に— (花園大学) 後藤 真
日本南北朝期古記録テキストを用いた潜在的トピッ
クの検出と時系列変化 (東京大学) 山田太造
(京都造形芸術大学) 野村 朋弘
(東京大学) 井上 聡
Conventions for a repository of premodern Chinese
texts (京都大学) Christian Wittern
東洋学のツールとしての翻デジ2014における諸課
題 (人文情報学研究所) 永崎研宣
- ・公開シンポジウム
2014年2月1日
於 本館共通1講義室
「ポスト68年の思想と政治—〈階級闘争〉から
〈社会運動〉へ?」
68年は「若者たちの叛乱」か 評論家：長崎 浩
村上一郎と市民社会派マルクス主義
(文芸批評家・近畿大学教員) 絃 秀実
マルクス主義政治哲学のために アントニオ・ネグ
リとその同時代人 (龍谷大学教員) 廣瀬 純
ポスト68年の状況：構造から政治へ
(カナダ・マギル大学教員)
- ・公開セミナー
2014年3月14日(金)
於 本館セミナー室101
文化都市形成のダイナミズム：プレスラウ、ドレス
デン、ライブツィヒから考える

「なぜ今この3つの都市なのか」

(京都大学白眉センター) 小石かつら

「田舎の誕生：18世紀ドイツの文化都市の形成とその余波をたどる」

(大阪大学文学研究科) 吉田耕太郎

「ユダヤ人の様々な首都：19世紀におけるユダヤ文化の分散と収斂」

(京都大学人間環境学研究科) 向井直己

「ドレスデン VS ライプツィヒ：2つの文化的中心をもつ国ザクセン」

(ツィッタウ・ゲルリッツ大学、

ザクセン文化基盤研究所)

マティアス・フォークト

※ツィッタウ・ゲルリッツ大学、マティアス・フォークト教授急病のため神戸大学大学院国際文化学研究科、藤野一夫教授に変更

6月7日 忘れられた東部戦線

(金沢大学) 野村真理

(京都大人文研) 伊藤順二

(津田塾大学) 吉岡 潤

6月28日 理念の戦争の却火が鑄出した「アメリカ」とは何か？

(大阪大学) 中野耕太郎

(京都大人文研) 王寺賢太

(神戸大学名誉教授) 横山 良

・特別シンポジウム (人文研アカデミー)

2014年5月17日

於 本館4階会議室

精神分析対談：『露出せよ、と現代文明は言う』をめぐって

講師：立木康介

(精神分析家/精神科医) 十川幸司

・TOKYO 漢籍 SEMINAR

2014年3月17日

於 学術総合センター 一橋講堂中会議場

「木簡と中国古代」

「中国西北出土木簡概説」 富谷 至

「年中行事における官と民」 目黒 杏子

「木札が行政文書となるとき」 土口 史記

「会場からの質問に答えて」

富谷、目黒、土口 およびセミナー参加者

・連続合評会 (人文研アカデミー)

2014年4月、5月 於 本館セミナー室1

レクチャー 第一次世界大戦を考える

4月26日 東南アジアからみた大戦の世界性

(早稲田大学) 早瀬晋三

(京都大人文研) 藤原辰史

(上智大学) 根本 敬

5月10日 敵国のために働くとは？

(神戸大学) 大津留厚

(京都大学) 奈良岡聰智

(愛媛大学) 梶原克彦

5月24日 愛国熱と制服フィーバーの時代

(摂南大学) 林田敏子

(京都大人文研) 小関 隆

・レクチャー & コンサート (人文研アカデミー)

2014年5月22日

於 芝欄会館 (京都大学医学部構内) 稲盛ホール
詩・ハーモニー・アドリブ・ジャズ・ヴォーカルを
伴奏する (人文研アカデミー)

講師：フィリップ・ストレンジ、

ステイーヴ・ハスマン、岡田暁生

・連続セミナー (人文研アカデミー)

2014年5月、6月

於 本館セミナー室1

軍事環境問題の現在 — 基地・戦争・核実験

5月29日 軍事環境問題総論 田中雅一

6月5日 ビキニ環礁の核実験の島民たち

(中京大学研究員) 中原聖乃

6月12日 沖縄における軍事環境問題を心的後遺症

(早稲田大学琉球・沖縄研究所

客員准教授) 北村 毅

6月19日 韓国の基地問題 & 反戦・平和思想

(筑波大学留学生センター研究員)

朴 眞煥

6月26日 ベトナム戦争と枯葉剤被害

(富士常葉大学) 上杉健志

人 文 学 報

・レクチャー上映会 (人文研アカデミー)

2014年6月11日

於 本館共通1講義室

イエロー・ケーキ クリーナエネルギーという
嘘 講師：(東京国際大学) 渋谷哲也

藤原辰史

・夏期公開講座 (人文研アカデミー)

2014年7月12日

於 本館1F共通1講義室

名作再読—いま読んだらこんなに面白い(8)

絶滅と創造の想像力 ハラルト・シュテュンペ
「鼻人類」 瀬戸口明久

くずし字で読む朝鮮の歴史 木村理右衛門「朝鮮物
語」 矢木 毅

周公の祈り 金藤「書経」

浅原達郎

・レクチャー上映会 (人文研アカデミー)

2014年7月18日～21日 於 京都文化博物館3階
フィルムシアター

「第一次世界大戦と映画特集—映像に刻まれた現
代の起点—」

講師：小川佐和子

映画研究師：佐藤 洋

ピアニスト：神崎えり

・高大連携企画 (人文研アカデミー)

2014年7月27日、28日

於 熊本市立図書館

キッチン・トーク & ビブリオ・トーク in 熊本

講師：藤原 辰史

・高校生のための夏期セミナー

2014年8月8日

於 分館・東アジア人文情報学研究センター大会
議室

漢字文化への誘い 第2回「書き取りだけが漢字
じゃない！」

「平林(タイラバヤシ)か、平林(ヒラリン)か—
漢字の属性と戯れる」 井波陵一

「漢文博士が愛した数式—漢文での算数」 武田時昌

・連続セミナー (人文研アカデミー)

2014年10月

於 本館1Fセミナー室1

「雲岡石窟からみた仏教文化の東伝」

10月9日 雲岡石窟の調査と研究

(京都大学人文科学研究所教授)

岡村秀典

10月16日 ガンダーラにおける仏像の出現と変容

(京都大学文化財総合研究センター助教)

内記 理

10月23日 雲岡から龍門へ—北魏仏教美術の変

容 (京都大学人文科学研究所准教授)

稲本泰生

10月30日 雲岡から飛鳥へ

(大阪大谷大学文学部歴史文化学科

専任講師) 田中健一

・公開講座

2014年11月8日

於 本館4階大会議室

「仏教では「心」をどうとらえてきたか」

「無心の心から心を捉える—インド仏教の思潮」

(滋賀医科大学医学部教授) 室寺義仁

「無心の心から無事へ—中国の禪」

(駒澤大学総合教育研究部教授) 小川 隆

「古代日本人の「こころ」の自覚と仏教」

(駒澤大学仏教学部教授) 石井公成

司会：(駒澤大学仏教学部専任講師) 藤井 淳

・特別シンポジウム (人文研アカデミー)

2014年11月22日

於 本館共通1講義室

大学とはなにか

講演者：(関西学院大学) 橋本伸也

(京都大学人文科学研究所) 山室信一

コメンテーター：(一橋大学) 森本淳生

(京大人文研) 王寺賢太

(京大人文研) 田中祐理子

司会：(京大人文研) 小関 隆

・国際シンポジウム（人文研アカデミー）

富永 茂樹

2015年1月12日

於 京都大学百周年時計台記念館 2F 国際交流
ホール I, II

Pourvu que ça dure…：政治・主体・〈現代思想〉

講演者：（パリ西大学名誉教授・
コロンビア大学招聘教授）
エティエンヌ・バリバル

（コーネル大学教授）ブルーノ・ボスティールス

（神戸大学教授・京大人文研

「ヨーロッパ現代思想と政治」

公募共同研究班班長）市田良彦

・国際学会

2015年1月29日, 30日

於 京都大学百周年時計台記念館 2F 国際交流
ホール I, II

「敦煌学国際学術研討会」

・公開記念ワークショップ

2015年3月7日

於 本館4階大会議室

臺灣銀行所蔵日治時期文書

司会：（京都大学人文科学研究所教授）籠谷直人
（中央研究院台湾史研究所副所長）鍾 淑敏

・TOKYO 漢籍 SEMINAR

2015年3月16日

於 一橋大学 一橋講堂中会議場

「清玩—文人のまなざし」

開会挨拶

富谷 至

「古鏡清玩—宋明代の文人と青柳種信」 岡村秀典

「李漁の「モノ」がたり—『閑情偶寄』居室・器玩
部より」 高井たかね

「利他と慈悲のかたち—松本文三郎の仏教美術観」

稲本泰生

・富永茂樹教授退職記念講演会

2015年3月10日

於 本館4階大会議室

「転位する観客—啓蒙と革命のあいだで」

・金文京教授【記録映画】上映会と講演会

2015年3月14日

於 本館第1セミナー室1階

【記録映画】最後の吉原芸者 四代目みな子姐さん
— 吉原最後の証言記録 —

所員動静

- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、早期退職（3月31日付）。
- ・小野寺史郎助教（附属現代中国研究センター）は、辞任の上（3月31日付）、埼玉大学教養学部准教授就任。
- ・村上衛准教授（東方学研究部）は、附属現代中国研究センターに配置換（4月1日付）。
- ・藤本幸夫麗澤大学客員教授は、客員教授（文化研究創生研究部門、4月1日～2015年3月31日）。
- ・JACQUET, Benoit Marcel Maurice フランス国立極東学院京都支部長は、客員准教授（文化研究創成研究部門、4月1日～2015年3月31日）。
- ・武上真理子 人間文化研究機構地域研究推進センター研究員は、客員准教授（附属現代中国研究センター、4月1日～2015年3月31日）。
- ・VITA, Silvio 京都外国語大学教授は、特任教授（4月1日～2015年3月31日）。
- ・HOLCA, Irina を講師（人文学研究部）に採用（11月1日付）。
- ・金文京教授（東方学研究部）は、早期退職（2015年3月31日付）。
- ・富永茂樹教授（人文学研究部）は、定年により退職（2015年3月31日付）。

招へい研究員

- ・劉 桓武 寧波大学教授
前近代の日中交流史
(文化連関研究客員部門) 受入教員 富谷教授
期間 2月15日～8月14日
- ・徐 興慶 台湾大学教授
近代日本の中の後期水戸学—思想史からのアプローチ
(文化生成研究客員部門) 受入教員 山室教授
期間 6月16日～9月15日
- ・任 城模 近世大学副教授
第一次世界大戦後における帝国改造論の日・朝思想連鎖
(文化連関研究客員部門) 受入教員 山室教授
期間 8月15日～2015年2月14日
- ・LACHHAUD, François Gilbert
フランス極東学院教授
変革期における宗教の政治的・社会的役割：比較研究の試み
(文化生成研究客員部門) 受入教員 富永教授
期間 9月20日～12月19日
- ・金 秉駿 ソウル大学教授
秦漢時代における「県」設置過程の復原
(文化生成研究客員部門) 受入教員 宮宅准教授
期間 2015年1月5日～7月4日

招聘外国人学者

- ・王 健 上海社会科学院歴史研究所副研究員
邪教淫祠の破壊からみた明清時期中国の国家権力と民間信仰の相互作用 受入教員 岩井教授
期間 3月1日～8月31日
- ・李 成九 蔚山大学校・人文大学教授
中国古代における楚の巫文化
受入教員 宮宅准教授
期間 2月7日～12月25日
- ・NIELSEN, Bent コペンハーゲン大学准教授
中国古代学術思想史—讖緯思想の研究

受入教員 富谷教授

期間 9月1日～11月30日

- ・姜 明淑 培材大学校教職部副教授
日本植民地支配後期における朝鮮教育政策研究
受入教員 水野教授

期間 9月1日～2015年8月31日

- ・許 榮恩 大邱大学校・人文大学教授
日中古典文学の比較研究：特に女性の役割をめぐって
受入教員 井波教授

期間 7月15日～12月25日

- ・NGUYEN, To Lan Vietnam Academy of Social Sciences, Researcher Fellow
東アジアにおける『三国志演義』の翻訳
受入教員 金教授

期間 10月2日～11月1日

- ・水野宏美 ミネソタ大学歴史学部准教授
20世紀日本の化学肥料の歴史

受入教員 藤原准教授

期間 12月28日～2015年7月2日

- ・韓 程善 高麗大大学校国際学部准教授
日本帝國と専門新聞記者の誕生, 1905-1937
受入教員 山室教授

期間 2015年1月6日～6月30日

- ・漆 麟 西南大学美術学院講師
日中戦争期におけるモダニズム美術の諸相
受入教員 石川教授

期間 2015年1月14日～2016年1月14日

- ・葉 純芳 北京大学歴史学系(中国古代史研究中心) 副教授

『周礼正義』の書誌学的考察及びその索引提要の編纂
受入教員 武田教授

期間 2015年3月1日～12月31日

外国人共同研究者

- ・POLFUSS, Jonas ミュンスター大学非常勤講師
唐代の文学と法制 受入教員 富谷教授
期間 2014年3月1日～3月31日
- ・TAJAN, Nicolas Pierre
中学生の不登校の日仏比較研究

- 受入教員 立木准教授
 期間 4月1日～2015年3月31日
- ・崔 在馥 国史編纂委員会（歴史振興室）編史研究士
 韓日仏教関係研究 受入教員 矢木准教授
 期間 4月10日～12月9日
- ・SCHERRMANN, Sylke Ulrike
 青島旧蔵ドイツ語文献中の法制関係資料の調査
 受入教員 岩井教授
 期間 5月15日～2015年3月31日
- ・林 佩瑩 エルサレム・ヘブライ大学東洋学部博士研究員、東洋学非常勤講師
 末法時代の祖師像—聖徳太子と南岳慧思伝について
 受入教員 ウィッテルン教授
 期間 7月11日～10月6日
- ・尹 寧實 University of Toronto, East Asian Studies Department Postdoctoral Researcher
 戦時期植民地朝鮮における内鮮一体論と民族超克論：崔南善を中心にして 受入教員 水野教授
 期間 8月1日～2015年6月30日
- ・李 怡文 イェール大学歴史学部博士課程学生
 日中貿易における寺社と商人、900-1550年
 受入教員 岩井教授
 期間 9月20日～2015年5月31日
- ・BATRAM, Anja ボーフム・ルール大学専任講師
 日本近世における神社の社会史
 受入教員 岩城准教授
 期間 10月2日～2015年9月30日
- ・鄭 琮樺 韓国映像資料院韓国映画史研究所専任研究員・慶熙大学演劇映画学科兼任教授
 植民地近代の日本・朝鮮映画交渉に関する歴史的研究
 受入教員 水野教授
 期間 11月25日～2016年3月31日

外国人研究生

- ・ANTON, Alina Elena
 日系アメリカ人や日系カナダ人の文化とアイデンティティー
 受入教員 竹沢教授

- 期間 4月1日～2016年3月31日
- ・JENSEN, Christophe Jon
 夢の内容と現実の生活：東アジア中世仏教における夢の物語
 受入教員 船山教授
 期間 4月1日～2015年9月30日

短期交流学生

- ・游 秋玫
 中国陶磁史研究 受入教員 岡村教授
 期間 10月1日～2015年9月30日
- ・林 思婷
 A Study of Guangzhou City-God Temple in Modern Period 受入教員 ウィッテルン教授
 期間 10月1日～11月30日
- ・李 秀偉
 明清江南演劇と民間信仰研究
 受入教員 金教授
 期間 11月15日～12月31日

出版物

紀要

- ・東方学報 89冊（紀要第175冊）
 2014年12月20日刊
- ・東洋学文献類目 2011年度
 2014年3月10日刊
- ・東洋学文献類目 2012年度
 2015年3月10日刊
- ・人文学報 第105号（紀要第174冊）
 2014年6月30日刊
- ・ZINBUN number44
 2014年3月刊
- ・ZINBUN number45
 2015年3月刊

研究報告その他

- ・ 武田時昌編 術数学の射程—東アジア世界の「知」の伝統
2014年3月10日刊
- ・ 所報人文 第61号
2014年6月30日刊

- ・ 富谷至編 漢簡語彙考証
2015年1月29日刊
- ・ 大浦康介編 日本の文学理論—アンソロジー（ベータ版）』
2015年3月31日刊
- ・ 東洋学へのコンピュータ利用第26回研究セミナー
2015年3月20日刊